

第2回大阪市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会（小学校） 会議録

1. 日 時 令和元年7月4日（木）13：00～18：00

2. 会 場 大阪市教育センター 第5研修室

3. 出席者

（委 員）

岡崎委員、添田委員、花田委員、高原委員、橋本委員、久保委員、庄司委員、渡瀬委員、大澤委員、山口委員、樋口委員、玉村委員、中谷委員、豊岡委員

（各地区調査会代表）

塩屋区担当教育次長、大畑区担当教育次長、吉田区担当教育次長、山口区担当教育次長

（事務局）

水口指導部長、飯田学校力支援担当部長、盛岡中学校教育担当課長、弘元初等教育担当課長、藤原インクルーシブ教育推進担当課長、富山教育活動支援担当首席指導主事、田中総括指導主事、青山総括指導主事、亀川指導主事、大竹野指導主事、是澤指導主事、佐々木指導主事

4. 議 題

- (1) 調査研究の経過ならびに選定資料について
- (2) 各調査会から調査結果の報告（種目別報告）
- (3) 協議および検討
- (4) 事務連絡

5. 議事録

はじめの言葉

（委員長）

みなさんこんにちは。本日もよろしくお願いいたします。それではただいまより、第2回選定委員会を始めます。委員のみなさまにおかれましては、お忙しい中をご出席賜りまして、誠にありがとうございます。5月30日に行われました第1回選定委員会以降、各調査会で調査研究を行い調査員による調査は、先週に全て終了いたしております。お手元の冊子にはその調査結果が記載されております。大勢の教員が何時間にもわたって調査研究してきたものでございます。本日は各地区での調査の結果を報告していただき、その後、質疑・応答、答申資料の内容について検討いたしたいと考えております。長時間の会議となりますが、慎重なご審議の程、ご協力よろしくお願いいたします。それでは、ここからスタートで失礼いたします。

では、始めに事務局より、調査研究の経過ならびに選定資料などについての説明をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(事務局)

では、「調査の観点」をご覧ください。こちらの方ですが、先程もご説明しましたように、前回の第1回選定委員会で、ご指摘いただきましたご意見をもとに修正・確定の方をさせていただいております。また先日、各学校調査会、専門調査会の説明会がそれぞれございました。たくさんの校長先生方、先生方にご参加いただき、選定委員会での議論も含めて説明させていただいております。その後、各調査会では、「調査の観点」に則って、校長や教員の調査員の皆様に調査・研究を進めていただきました。

各調査の概要をご説明申し上げます。まず、学校調査会は、市立 289 校の全小学校で、各校の校長や教員による調査研究が行われました。各校からの報告を集約したものをまとめさせていただいております。また、この学校調査会の調査結果は、すでに専門調査会にも報告しております。

専門調査会は、地区ごとに各種目において行われました。代表の校長先生と教員の約 4 名がメンバーとなり、約 1 か月間、専門的な立場から調査・研究が行われました。学校調査会の調査結果も加味して、発行者ごとに調査の観点に照らしたうえで、特筆すべきことならについて記入し、さらに地区調査会にてまとめさせていただいたものが、お手元の資料になります。こちらの方、教育センターの指導主事も連絡等取りながら作成を進めさせていただきました。また、調査・研究を行った際の根拠や参考となる定量的調査資料についても用意をさせていただいております。

では、調査結果の見方についてご説明させていただきます。「学校調査会調査票【一覧】」をご覧ください。めくっていただきますと、第1地区の国語の調査結果となっております。表の一番上に各教科書発行者の略称があります。各学校において、調査の観点ごとに「優れている」点、「工夫・配慮を要する」点について、1 つまで選択できるようにしています。一番右側の列はその合計数となります。

続いて、「地区調査会調査結果」をご覧ください。こちらの方、1 ページを開いていただきますと、国語の「東京書籍」の調査結果となります。「総評」の欄には、「調査の観点」に照らして特に顕著な特長を取り上げながら、発行者ごとの特色がわかるように記述しています。「総評」の下には、「調査の観点」に記載された選定基準の項目に基づき、発行者ごとに、「特に優れている点」および「特に工夫・配慮を要する点」について箇条書きしております。なお、箇条書きの末尾には、「調査の観点」の特にどの観点に関わる記述かが分かるよう、観点番号（丸囲み数字）を書き出しています。

本日は、この地区調査会の報告をもとに、内容を検討し、答申資料を作成にむけてご審議いただきたいと考えております。

次に市内 31 か所の教科書センターで開催中の「教科書展示会」でお寄せいただいた学校協議会委員、保護者、市民の皆様からのアンケートについてです。6 月 25 日現在のアンケート回収総数は 1046 通、平成 30 年度の時は 716 通となっております。集まったアンケート用紙そのものは、ファイルに閉じております。また、休み時間にお示しさせていただきますので、後ほどご覧ください。

次に本日の予定について、ご連絡させていただきます。本日は、各調査委員会がおこなった調査の結果について報告を受け、それをもとに選定委員会として審議いたします。各地区委員会の概要については、区担当教育次長から、各種目の結果につきましては、種目ごとに担当指導主事から報告させていただきますので、ご審議よろしく願いいたします。また、本日は全種目ということで教科書の

冊数もたいへん多くなっております。種目ごとに説明させていただく際に、教科書見本をお机に置かせていただいておりますので、自由にご覧になっていただければと思います。なお、メモ用紙も準備させていただきましたので、ご活用いただければ幸いです。

本日ご審議いただき、さらに確認が必要な事柄につきましては、事務局で専門調査会に確認するなどして報告いたします。

今回の第3回の選定委員会は、本日審議内容について確認し、答申資料について審議決定する予定でございます。

私からの説明は以上でございます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(委員長)

ありがとうございました。皆さま、よろしいでしょうか。次に進ませていただきたいと思います。続きまして、調査結果の報告をしていただきます。まず、始めに、地区調査会代表より地区調査の概要についてご説明いただきたいと思います。第1地区の方からお願いいたします。

(地区調査会代表)

それでは、第1地区調査会代表として報告させていただきます。まず第1地区の特性でございますけれども、第1地区は、此花区、港区、西淀川区、淀川区、東淀川区の5区で構成されている地区でございます。大阪の玄関新大阪やベンチャー企業の集積が進む西中島近辺、USJ、海遊館等の集客施設、高い工業出荷額を誇る工業地域と併せ、都心の中に緑豊かな水辺空間である淀川河川敷があり、ビジネス・生産機能と豊かな水辺環境などを有する都市であります。

第1地区は昨年度全国学力・学習状況調査結果を見ると、国語、算数、理科の全科目で相対的に課題がありました。特に応用的なB問題について顕著であります。したがって、「調査の観点」に示されている調査の基本的態度のうち、次の4点大阪市教育振興基本計画に示されている基本的な目標

- * 全ての子どもたちが学力を身に付けながら健やかに成長すること
- * 心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・向上
- * 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
- * 論理的思考力・判断力、豊かな表現力等の育成

以上4点については、特に重点を置くべき4点であると思料されます。

また、本市教育委員会が、堅実な学力定着のための授業改善を目的として実施している「国語・算数科教育推進ワーキング会議」からこれまで適示されている国語の読解力の向上、領域別系統等を意図した授業推進・指導にできるだけ資する教科書の選定はより一層望ましいと思料されます。

第1地区にある西淀川区においては、学びへの意欲・好奇心・将来の夢等を喚起する必要性が重要な課題として存在しています。平成28年度の大阪市子どもの生活に関するアンケートでは、将来の夢や目標を持っているという設問に否定的な回答をしている中学校2年生が39.1パーセント、小学校5年生が16.2パーセントで大阪市府の平均を上回り、学びへの意欲、好奇心、興味を喚起するものが特に望ましいと思料しています。

学校調査会では、各種目を通して、調査の観点1「大阪市教育振興基本計画等との関連」では、「③主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に資するよう配慮されているか」と「④児童

の発達の段階や特性等を踏まえつつ、論理的思考力・判断力、豊かな表現力等を育成するよう配慮されているか」の項目について「優れている」と判断した学校の数がほぼ同数で最も多く、③④の項目に対する関心の高さがうかがえます。

調査の観点3「外的要素」では、「③さし絵や写真などが鮮明で、色づかいが配慮されており、大きさや位置などが適切に配慮されているか」の項目について「優れている」と判断した学校が全種目を通じて多く、この項目への関心が高いことが伺えます。

第1地区の特性から、特に重点をおくべき要素であると思料されるこの4点と、好奇心興味の関連のある要素が、学校調査会でも関心が集まっていることが伺えます。

種目別で特徴的なものとしましては、国語・算数とも、特に重点である4点において優位であると認められるものがありました。他の種目で音楽と図工では、特に重点をおくべき4点、及び、意欲、好奇心、喚起等に重要な要素であると思料される点において、優位であると認められる教科書と低位であると認められるものに区分される状況であります。ただし図工では、表現および鑑賞の活動を通して、造形的な見方、考え方を働かせ、生活や社会の中で形や色などと豊かにかかわることについて配慮されているかについて一者が優位な状況でした。専門調査会については、お手元の資料の通りです。

(委員長)

ありがとうございました。それではつづきまして、第2地区のご報告をお願いいたします。

(地区調査会代表)

第2地区調査会代表を担当させていただいております、都島区長の大畑です。どうぞよろしくお願いいたします。第2地区の特徴は西日本最大の大阪・梅田ターミナルをはじめ、大川・中之島エリアにある歴史的建造物、美術館などの文化集客施設、福島地区等の商業地域、鶴見緑地や毛馬桜之宮公園、城北公園・菖蒲園などがあり、ビジネス・文化機能と水・みどり豊かな環境などを有する都市であります。第2地区は全国学力学習状況調査の結果から、教科書選定において、標準的な内容がしっかり押さえられ、かつ主体的に学習できる工夫がなされている教科書か否かを調査にあたっては重要視するポイントとしました。

学校調査会では、調査の観点1「大阪市教育振興基本計画等との関連」では、「④児童の発達の段階や特性等を踏まえつつ、論理的思考力・判断力、豊かな表現力等を育成するよう配慮されているか」の項目について「優れている」と判断した学校の数が最も多く、次いで「③主体的・対話的で深い学びの実現に向けた儒教改善に資するよう配慮されているか」が多くありました。調査の観点3「外的要素」では、「③さし絵や写真などが鮮明で、色づかいが配慮されており、大きさや位置などが適切に配慮されているか」の項目について「優れている」と判断した学校が全種目を通じて多く、この項目への関心が高いことがわかります。種目で特徴的なものについてお話させていただきます。社会については2者が優位で、学校数が全く同数でありました。もう1者との学校数の差は少ないです。理科については、1者が優位でありましたが、2番目以降はそれ程差がありませんでした。

算数の専門調査会では、特に主体的・対話的で深い学びの実現、教科横断的な視点に重点を置き議論が進められました。各者とも、様々に工夫がなされていましたが、例えば、友達の考えを書いたり、ま

とめを書いたりすることが示され、対話的な学習の実現を図れる表記があるもの、補的な内容と応用的な内容がバランスよく扱われているものなど、数学的な面白さを獲得できるような工夫もありました。

(委員長)

ありがとうございました。それではつづきまして、第3地区のご報告をお願いいたします。

(地区調査会代表)

大正区長の吉田康人です。教育委員会事務局大正区担当教育次長の立場で第3地区調査会代表を拝命いたしました。どうぞよろしくお願い申し上げます。まず、中央区、西区、大正区、浪速区、住之江区、住吉区、西成区で構成される第3地区の地域特性、すなわち土地柄でございます。日本屈指のインバウンド観光拠点であるミナミや大阪城公園、船場地区をはじめ、大阪を代表するビジネス街、タワーマンションの建設が進む都心部、住吉大社や路面電車など趣きのあるまちなみ、そして、大阪港、南港ポートタウンを中心とするベイエリアなどがあり、ビジネス、集客・物流機能、あるいは、利便性の高い居住環境などを有する地区です。

各区や各地域それぞれに特徴はありますが、全体としてみた場合、物と人、昔と今、文明と自然、調和と自律のバランスがとれた地域土地柄でございます。この選定事務につきましても、バランス感覚にあふれ、客観的、合理的で社会的な意味で納得性の高い事務が求められる地区であると考えています。第3地区におきましては、特に以下の目的意識をもって選定委員会での報告事務を進めてきたところでございます。すなわち、1点目は大阪市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会規則を極めて高いレベルで遵守すること。2点目は選定委員会が示した令和2年度使用教科用図書調査の観点(小学校用)に極めて高いレベルで準拠することでございます。具体的に1点目の規則に基づき学校調査会と専門調査会双方の調査の整合性の確認を重点的に立証いたしました。例えば、学校調査会の調査結果を踏まえて、第二次調査結果をまとめる専門調査会との間で、両調査会の対比表を作成し、共有をいたしました。2点目の調査の観点に基づき、大阪市教育振興基本計画などで示された基本的な目標について言及があるかどうかを確認したうえで、大阪市の2つの最重要目標に最重点を置き、次に今日的な教育課題3点に重点をおいて報告義務を進めてきたところです。例えば、国語科の場合、専門調査会において、基本計画等で示された伝統、文化といった基本的目標では、学校図書に優れている点がみられました。安心安全ならびに学力体力の結果2つの最重要目標では「東京書籍」さらに調査の観点に示された主体的思考力といった今日的な教育課題では「教育出版」と「光村図書出版」に優れた点が見られました。地区調査会の代表として、これらのことを確認したうえで専門調査会へ指導助言を行いました。1点目の基本計画、2点目の調査の観点双方に基づき、当然のことながら学校調査会、専門調査会、そして地区調査会の調査結果が合理的で説得力のあるものになっているかなどを重点的に確認し、専門調査会へ指導、助言を行いました。例えばですが、「教育出版」の音楽科の場合、専門調査会に対して、全体的に見た場合学力向上への繋がりに関する調査報告の記述が矛盾している。どう理解すればよいのかと指導助言を行ったところでございます。以上で申し上げてまいりました基本的な目標、2つの最重要目標、今日的な教育課題3点の他、内容の取扱い、外的要素、構成配列、資料、その他の観点を踏まえての調査結果の詳細につきましては、後程、教科担当指導主事から報告させます。私からは以上です。

(委員長)

ありがとうございました。それではつづきまして、第4地区のご報告をお願いいたします。

(地区調査会代表)

第4地区調査会代表を担当します、生野区担当教育次長そして生野区長の山口です。第4地区は天王寺区、生野区、阿倍野区、東住吉区、平野区から構成されます。地区の特徴としまして、日本で最も高層の商業ビルであるあべのハルカスや、天王寺公園、長居公園などの緑地、コリアタウンや平野環壕集落といった個性豊かなまちなみを有するとともに、エリアによっては、文教地区として学校も多く立地しております。歴史・文化豊かな居住環境と賑わい・集客機能などを有する都市であります。

ただこの第4地区の大きな特徴としましては地域間格差が大変激しいということでもあります。また、今後より日本語を苦手とする海外からの児童生徒の増加が見込まれるエリアでもあります。多様性を受け入れ、また時代の変化に応じて多様な仲間と共同して取り組むべき課題がたくさんあるそういったエリアだと考えております。グローバルな視点、そして、多様性を受け入れる視点をもって子ども達を育成するかというのは一つの大きな課題であると考えます。

学校調査会の経過報告をいたします。調査の観点の1、大阪市教育振興基本計画等との関連におきましては、4の児童の発達の段階や特性等を踏まえつつ論理的思考力判断力豊かな表現力等を育成するように配慮されているかの項目について優れていると判断した学校の数が最も多くありました。この中で特に児童の発達の段階や特性等を踏まえつつというところに視点を向けていたと思うのですが、4の項目であります外的要素の3の挿絵や写真などが鮮明で色使いが配慮されており、大きさ位置などが適切に配慮されているかの項目について優れていると判断した学校が全種目について多かったことも関連していると思います。ユニバーサルデザインの観点、そして文字数が適正であるか、子どもたちにとって見やすい教科書であるか、といった項目への関心が高いことが結果としてあらわれています。そして③であります調査の観点に戻ります。③の主体的対話的深い学びの実現に向けた授業改善に資するよう配慮されているか、そして、子どもが安心して成長できる安全な社会、学校園、家庭、地域の実現に配慮されているかの項目に関しても優れているという学校の数も多くありました。特に道徳に関しまして、大阪市教育振興基本計画の重点項目でありますいじめの取扱いについての課題意識を打ち出した回答というのが多くありました。種目で特徴的なものをご紹介します。優れているの数から工夫配慮を要するを差し引いた数値で比較いたしました。国語については2者が優位で他者との学校との差が大きい傾向があります。社会については1者が優位で他者と差が大きいです。地図につきましては、1者が優位で他者との学校数との差が大きいです。音楽についても1者が優位で他者との学校数との差が大きいというのが特徴です。また、英語に関しましては、どんな授業をしていいかわからないという若い教員が多いせいかもしれませんが学校調査会の結果と専門調査会の結果に若干の差異を認めるところであります。

専門調査会の結果を報告します。算数の専門調査会では、児童が意欲を持てるか、適切な指導があるかといった観点に重点をおき、議論が行われました。優れている点として、挿絵や写真など生活場面から算数の問題場면을イメージしやすくするためのものが適切に配置されているかや、練習問題のページが2種類あり、児童の実態で学習状況に応じて、活動内容を変えられるようになっているもの、問題

の文字が大きく見やすいもの、文字や写真などの数も豊富で視覚的に捉えやすいよう配慮されているものなどがありました。理科の専門調査会では児童が主体的に学ぶ展開になっているか等について議論がありました。優れている点として、身近な生活の中から問題を見出したり、学んだりする、学んだことを生活に生かしたりすることができる、問題解決の順序で、学ぶ工夫がなされているなどそれぞれの工夫があり、学ぶ力の育成が期待できるといった報告がありました。学校調査会、専門調査会の調査を受けまして、区担当教育次長として、一つの観点として、教科横断的な学びの視点に関しましてはやはりそれぞれ縦割りという専門性に基づいてそれぞれ調査をしていることもあって言及が少なかったというのが一つ指摘としてあります。私からは以上です。

(委員長)

ありがとうございました。ただいま1地区から第4地区の報告をいただきました。それでは次に各種目につきまして、種目担当指導主事から報告をしていただきます。これからの時間につきましては、報告質疑を含め、1種目で15分間。教科書の数の少ない種目につきましては10分間程度を予定しております。はじめの6種目が終わりましたところで、一旦休憩をとりたいと思っております。大変タイトな時間となりますがスムーズな進行にご協力理解よろしくお願ひしたいと思います。それではまず、国語からお願ひしたいと思います。

(事務局)

失礼いたします。各地区の専門調査会の調査概要について報告いたします。まず、第1地区では、特に「1 大阪市教育振興基本計画等との関連」の④の観点について、議論の論点になり、主に、東京書籍と光村図書が、他の2者と比べて優れた点が多いという結果が出ました。東京書籍については、「1 大阪市教育振興基本計画との関連」の③の観点において、どのような力を付けるために学ぶのかを明確に意識させる内容となっているうえ、児童が考える内容を明確に示し、指導に役立つ工夫がされています。具体的には、「つかむ」という単元を見通す導入のページを1ページ使って示されることで、主体的な学びを促し、「取り組む」のページで単元の「問い」が示されることで、対話的で深い学びへの効果的な支援となっています。また、同じく「1 大阪市教育基本計画との関連」の④の観点において、児童の発達段階・特性を踏まえ、論理的思考力・判断力・表現力の育成に資する配慮がされています。その学年で学ぶ「学習で使う言葉」を「ことばあつめ」としてまとめ、言葉の特徴や使い方についての理解を深めながら、語彙を広げていくことができ、国語に必要な知識・技能の内容として適切です。

光村図書については、「1 大阪市教育振興基本計画との関連」の④の観点において、児童の発達段階や特性を十分に踏まえた物語文教材を取り上げており、想像力、豊かな表現力を育むことに極めて有効です。時代を超えて親しまれる作品と、今の子どもたちに寄り添う新しい作品が用意されているとともに、単元の扉に「どのように読むのか」「どんな読みの力をつけるか」を意識させる文章が明示されるなどの工夫があります。また、「5 資料・その他」の観点においても、QRコードの導入により、主体的・対話的で深い学びへの誘導、意欲喚起に有効な資料である、写真やインタビュー動画等を取り込むことができます。ただ、単元末の「学習」のページに示された学習内容の提案（手引き）の通りに学習を進めることが、児童の実態によっては少し難しいと感じられる箇所があり、指導の工夫が必要です。

次に、第2地区では、特に、調査の観点「1 大阪市教育基本計画との関連」の③④の観点について

議論の論点になり、主に、東京書籍と光村図書が、他の２者と比べて優れた点が多いという結果が出ました。東京書籍については、「１ 大阪市教育振興基本計画との関連」の③の観点について、「主体的・対話的で深い学び」を実現できるように工夫されています。国語科で育む資質・能力が「言葉の力」として単元冒頭と単元末に分かりやすく提示され、児童が見通しをしっかりとって学習を進めていくことができます。また、「１ 大阪市教育基本計画との関連」の④の観点について、「つかむ」「取り組む」「振り返る」という構成で学習するようになっているなど、児童の発達段階に即したきめ細かな指導の手引きがあり学習を進めやすくなっています。さらに、「２ 内容の取扱い」の②の観点においては、学習したことを他の学習や日常生活にいかしていくことができるような配慮もされています。具体的には、「つかむ」―「取り組む」―「振り返る」という学びの仕組みの中で、特に「振り返る」の「生かそう」というところに、他教科等の学習や日常生活に生かす観点が示され、単元の学習で身につけた言葉の力の活用が促されます。

光村図書については、特に、「１ 大阪市教育振興基本計画との関連」の④の観点について、確かな学力を身につけられるよう、習得・活用・探究が繰り返されています。新学習指導要領に則り「とらえよう」―「ふかめよう」―「まとめよう」―「ひろげよう」と学習の展開が明示されており、児童が見通しをもって学習できます。また、「５ 資料・その他」の観点においても、特に教材につけられたQRコードから読み込む資料には、学習を支援する動画等が豊富に掲載され、教室だけでなく家庭でも自主的に学習できるよう配慮されています。一方、全体的に文字の量が多いため、児童が読むことを敬遠する可能性があり、児童の興味関心を引き出すとともに理解を促すよう、物語においては挿絵の配置やページ組みに配慮が欲しいところです。

次に、第３地区では、特に、調査の観点「２ 内容の取扱い」の①、②の観点について議論の論点になり、主に、東京書籍と光村図書が、他の２者と比べて優れた点が多いという結果が出ました。東京書籍については、「２ 内容の取扱い」の②の観点について、日常生活に必要な国語の特質を理解し、適切に使うことができるような内容が多く取り上げられています。例えば、「生かそう」というコーナーを単元末に設け、この単元で付けた力を他教科や日常生活で試すことを促しており、多様な活動場面や学習活動の組み合わせを考えさせる工夫がされています。また、「２ 内容の取扱い」の⑤の観点についても、入門期における指導内容が充実しており、字を書く姿勢や鉛筆の持ち方、ひらがな・カタカナ・漢字練習と丁寧な配列がなされ、指導がしやすくなっています。さらに、読書への意欲を促す工夫や、継続的な読書活動が行われるような工夫も多く見られます。各学年に図書館の利用を呼びかける単元や「本は友だち」などの図書紹介の単元を設けるとともに、単元ごとに「こんな本もいっしょに」という項目を設け、関連図書資料が掲載されるなどして、紹介図書数が大変多く、わかりやすい解説や鮮明な写真を使用し、児童が進んで本を手に取りたくくなるような工夫があります。

光村図書については、特に、「２ 内容の取扱い」の①の観点について、論理的思考力や感性が培われるような言葉や語彙にふれる場が多く設定されています。例えば、「考えや気持ちを伝える言葉」や「学習に用いる言葉」がまとめられた「言葉の宝箱」が２年以上の各巻巻末の折り込みに設置されていたり、国語科で学習したことを他教科や日常生活と結びつけ、活用できるよう「たいせつ」「いかそう」といった形で示されていたりしている点が優れています。しかし、６年「やまなし」等、児童にとってはやや難解な教材もあり、児童の実態に合わない状況も予想されます。

次に、第４地区では、特に「１ 大阪市教育振興基本計画等との関連」の③④の観点について、議論

の論点になり、主に、東京書籍と光村図書が他の２者と比べて優れた点が多いという結果が出ました。東京書籍については、「１ 大阪市教育振興基本計画等との関連」の④の観点において、児童の意欲や関心を高め、計画的に学習できるような構成になっており、非常に優れた内容になっています。例えば、「つかむ」―「取り組む」―「振り返る」という学びの仕組みが示され、その仕組みにしたがって学ぶことで計画的な学習ができます。また、児童が国語を尊重すること、その能力の向上を図ることに適しており、例えば、「話す・聞く」「書く」「読む」のすべての単元に「言葉の力」が明示されており、何ができるようになるかを明確に示しながら、確かな言葉の力が身に付くように工夫されています。また、入門期教材は、児童の興味関心を引き付け、ねらいを達成することができるような工夫がされています。色鮮やかな挿絵や言葉でひきつけるとともに、朝の会等、学校生活での言語活動を取りあげるなど、幼児期から小学校にスムーズに接続する工夫が見られます。

光村図書については、「１ 大阪市教育振興基本計画」の③の観点において、児童が計画的に学習できるような構成になっている点が優れています。教科書のはじめに「国語の学びを見わたそう」というページが設定され、国語を「どのように学ぶか」が示されています。また、主体的・対話的に学習ができるように、「話し合う」という活動が設けられ、自分の考えを深めるための工夫があります。「読むこと」「話すこと・聞くこと」「書くこと」のどの領域の学びにも、自分の考えを交流する対話の場面が設定され、自分の理解や表現、考えの深まりを支援できます。しかし、「３ 外的要素」において、１年入門期の文字が小さい点については、スタートカリキュラムの意識が薄いのではないかという意見が見られました。以上で 国語科の報告を終わります。

(委員長)

ありがとうございました。国語の説明をしていただきまして、委員の皆様方、ご質問、ご意見などごさいませんでしょうか。ないでしょうか。特に調査の観点の１の大阪市教育振興基本計画との関連の③、④このあたりが議論の中心になったと説明があったんですけども、いかがでしょうか。

(委員)

どの地区か忘れてしまったんですけども２つの質問です。一つは、「やまなし」が宮沢賢二の、これがちょっと難しいんじゃないというご指摘があったんですけども、もちろんこれ難しい教材なんですけれども割と一般的に今まで教科書に載っていたというか、例えば教育養成課程で国語科教育法だとか、教材研究等ではかなり取り上げられているので、それなりの実践の蓄積があるんじゃないかという風に私は思ったんです。それをあえて、これは難しいという風にされたのはどういうところで難しいのかというのと、もう一つは東京書籍の方で、これどの地区だったか忘れちゃったんですけども、振り返るという学びがあってその中には「生かそう」というコーナーがあってそれがすごく使いやすいということだったんですけども、例えば、私が今、手にしている世界に目を向けて意見文を書こうというのは、６年生の東京書籍の１５８ページからなんですけども「世界に目を向けて意見文を書こう」で、その中で、ペアトレードとかそういう文章を読んで考えよう的な内容なんですけれども最後の世界が社会の１６３ページの「生かそう」で世界や社会の出来事で興味を持ったことについて自分の考えを発表する。これかなり難しいと思うんです。小学生に対してね。これはおそらく私が考えるにはこれの指導書がね、例えばこういう風な例をあげてとかこういう風な活動をさせてこの通りさせるとうまくい

くんじゃないですかと書いてあるんだと思うんですけれどもそれでなかったらこれかなり難しいことになっている。そのあたりのところは議論にはならなかったのでしょうか。

(委員長)

2点ございました。光村の「やまなし」の件と東書の「生かそう」と今、ご説明いただいたところで。このことについて説明できる範囲でお願いします。

(事務局)

はい。失礼します。まず1点目のやまなしの件ですけれども、第3地区の調査会の中で話題になったものでして、現場の先生が実際授業をされている中でその児童の反応を見る中で期待したような反応がなかなか見られないとかそこは授業の工夫によって改善されるものではあると思うんですけれどもなかなかそのような印象を受けている先生方が多くそういった意見が出たというところでございます。2点目につきましては、ペアトレードの件につきましては、専門調査会の中でその語句について意見がでたかどうかについては把握できておりませんけれども、指導書等ではきっと適切な進め方というのはそこに書かれているのかなとは思いますが、確かに「生かそう」というのは日常生活に生かすということがありますので、どうつなげていくのかというのは、これはまた教師の力量が試されるところではあるんだと思いますがただ「生かそう」という工夫っていうのは次の新学習指導要領で日常生活のいろいろなところに生かしてどう戻していくかというのがポイントになっておりますので、そこが目立つように設定されているという表記が評価されたというのはあると思います。以上です。

(委員)

ありがとうございます。おっしゃられたとおり、あの「生かそう」というのは現場の先生に対してのメッセージとか、保護者の方々に対してのメッセージだという意味で非常にいいと思います。ただ、同時にここに書いてあるからいいでしょうじゃなくて、先生で変わるかなと思うんですね。この問題を子どもはこのままでは何も答えられないので、その間をどう埋めるのかというのをやっぱり同時にこれから教科書としてはいいんですけどね、学習指導要領の理想が高いだけにそのところをこれから工夫していかなければいけないと。

(委員長)

ありがとうございます。時間の関係もございます。次の書写に移りたいと思います。よろしいでしょうか。それでは続きまして、書写についてお願いいたします。

(事務局)

失礼いたします。よろしくお願いいたします。各地区の専門調査会の調査概要につきまして報告させていただきます。まず、第1地区ですけれども、特に「1 大阪市教育振興基本計画等との関連」の観点や、調査の観点「2 内容の取扱い」の観点について、どこの教科書出版者がより配慮された内容になっているか、新しい学習指導要領に沿った取扱いがあるか、などが議論の論点になりました。東京書籍についてですが、「2 内容に取扱い」の①の観点において、優れている点が多いのが特徴でござい

ます。特に、どの学年も最初のページに、文字を正しく整えて書くために「何を学ぶか」が各単元を縮刷して1年間のめあてが明確に示されていて、児童が見通しをもって学習することができます。また、基礎・基本を確実に身につけられるように学習過程が構成され、「どのように学ぶか」が明確に示されています。しかしながら、振り返りの表記におきまして、友だちと振り返ることについて取り上げられている言葉がやや難しいところがございます。光村図書出版につきましては「1 大阪市教育振興基本計画等との関連」の④の観点において優れている点が多いのが特徴でございます。各教材が見開きまたは1ページ構成となっており、シンプルでわかりやすい紙面となっています。スモールステップを積み重ねることを重視し、確実に基礎基本の定着を図るように工夫されています。しかし、児童にとって表紙の親しみやすさにやや課題があります。また、3年生冒頭の「確かめようシール」の取り扱いについてはどのように使っていくかというときにちょっと難しいなという声もありました。

日本文教出版につきましては、「2 内容の取扱い」の②の観点について、優れた点が多くございます。主教材は「考える→確かめる→いかす」の3段階で、学習過程が明確化され、書写の原理・原則を身につけることができるようにしています。また、すべての教材に「めあて」と「自己評価」を設定し、児童が学習の達成感を味わうとともに、学習内容の定着を図るようにしていて、優れているところが多く見られました。例えば、3年生の12ページのところに漢字の筆使いがございましたが、子どもたちにとってはイラストが大きく、字をどう書くかがわかりやすいこういうところがございます。これらのことは、学校調査会結果からも「優れている」という報告が数多くあがっています。

次に、第2地区では、「1 大阪市教育振興基本計画との関連」や「2 内容の取扱い」の観点や「4 構成・配列」の観点から、どちらの教科書出版者がより配慮された内容になっているか、新しい学習指導要領に沿った取扱いがあるか、などが議論の論点になりました。東京書籍につきましては、「2 内容の取扱い」の①の観点から優れた点がございました。正しく整った文字を書くために点画の交わりが色の変化により明確になっています。また、他教科の視点も含めた指導も行えるような構成・配列になっています。ただし、「3 外的要素」の①の観点から、児童が机上で扱うには、教科書の判型が他者と比べてやや大きいことがございます。学校図書につきましては「1 大阪市教育振興基本計画との関連」の③において優れている点が多いのが特徴です。子どもたちが学習を主体的に取り組めるようにポイントを、キャラクターが問いかける形式をとっています。資料において、6年生では「都道府県」「ローマ字」など基本的なものを載せています。また、学んだことを生活の中で生かす工夫がみられますが、1年生では書き込み分のスペースがですね、やや小さいことと、水書シートがないことが使いにくいかなという声がございました。

光村図書出版についてです。「4 構成・配列」の②の観点から、優れた点が多いのが特徴です。学習内容を日々の学校生活に生かしたり、ノートで生かしたりすることができるページがございます。1ページ内の情報量は適量であり、無理なく学習することができます。特に、観点の①において鉛筆の使い方や3年生の筆の使い方についての記述はわかりやすいとの声が多く寄せられました。また、主体的・対話的に学習の振り返りができるように〈「たいせつ」のまとめ〉というコーナーがどの学年にも掲載されています。ここまでが第2地区です。

続きまして第3地区です。第3地区では、特に「1 大阪市教育振興基本計画との関連」の観点や「2 内容の取扱い」観点について、どちらの教科書出版社がより配慮された内容になっているか、新しい学習指導要領に沿った取扱いがあるか、などが議論の論点になりました。東京書籍につきましては

は、「2 内容の取扱い」の観点の④や「4 構成・配列」の観点の②について優れた点が多くございました。手本以外にも、児童が実際に書き込める欄や穂先の通り道を確認できる欄があります。また、「学びを生かそう」の欄では、その時間の学習課題を他の筆記具で文字を書く欄があり、用途に応じた筆記具を認識することができます。2年生から6年生の学年では、前学年までの既習事項が多くページで取り上げられており、学習の系統性がわかるようになっています。光村図書出版につきましては、特に「2 内容の取扱い」の観点の③について優れた点があります。筆記用具の持ち方や姿勢の説明にもQRコードがついており、わかりやすくなっています。また、部首になる漢字の例を挙げ、形の変化が視覚的に示されており、わかりやすくなっています。ただし、猫のイラストが、例えば3年生の教科書のP.12, 14, 22に猫のイラストがついているのですが、このイラストが集中の妨げになるので本当に必要であるのかという声もあがっております。

教育出版につきましては、特に「2 内容の取扱い」の観点の④について優れた点があります。学習の進め方が図やマークで示されており子どもにとってめやすがわかりやすいです。部首になる漢字の例を挙げ、形の変化が具体的に説明されており、わかりやすくなっています。ただし、漢字の組み立てにおいては、もう少し例示を増やすことが望まれます。

続きまして第4地区です。第4地区では、特に「1 大阪市教育振興基本計画等との関連」の観点や、調査の観点「2 内容の取扱い」の観点、「4 構成・配列」の観点について、どちらの教科書出版社がより配慮された内容になっているか、新しい学習指導要領に沿った取扱いがあるか、などが議論の論点になりました。東京書籍につきましては、「4 構成・配列」の①や②の観点について優れた点が多くありました。最初に書写の学び方「見つけよう」「たしかめよう」「生かそう」「話し合おう」「広げよう」が図や写真を使ってわかりやすく示されています。日記・連絡帳・観察記録・実験記録・新聞・リーフレット・ポスター等の他教科の基礎となる内容が盛り込まれています。特に5年生のリーフレットづくりは教科横断的で主体的で対話的な学びにつながります。光村図書出版につきましては、特に「1 大阪市教育振興基本計画等との関連」の③の観点について優れた点がございました。学習内容が見開き1ページになっており、とても扱いやすいものとなっています。学習の流れに沿って、正しい書き方を学び、しっかりと振り返る活動を取り入れられるようになっています。ただし、毛筆や硬筆で学ぶことができる資料の数が十分とは言えません。

日本文教出版につきましては、特に「2 内容の取扱い」の観点⑥について優れた点がございました。手本となる文字が大きく示されており、文字の形、組み立て、筆順などを意識して書く学習を進めることができるように工夫されています。ただし、「3 外的要素」の③の観点から、「漢字の注意点」や「学習の過程」など特に、「筆順」につきましては数字で示しているんですが、画数が多い字となりますと、どの数字がどの場所に対応しているのかが、ややわかりにくくなりますので、色分けするなど「配色による強調」が必要かと思われます。以上で書写の報告を終わらせていただきます。

(委員長)

ありがとうございました。はい、それでは、委員の皆様、ご質問、ご意見があればお願いしたいと思います。

(委員)

失礼します。先ほどの国語と書写もご説明いただいているのですけれども、このご説明頂いた内容については、これもまた文章化した形で教育委員会の資料としてあげられるということなんではないかな。というのは、今、おっしゃられているそれぞれ説明を受けている内容とここに書かれている内容とが全く別な形なので、どれがどの根拠になっているのかと思いながらですね、こっちで聞きながら、こっちでどこのそれが資料の根拠にあたるのかということを生懸命照合していたので、大へん重要な事柄をおっしゃっているのが時々抜けてしまうというところで、学校調査会とそれから地区別の調査会とそれぞれ広げて、その項目も具体的にどういう根拠でどこの差がいいのかということを知っているつもりなのですが、どこなのかなと思いながらですね。ちょっとそれをまた後でどなたか明確に教えていただきたいと思いました。で、メモする基準がいると思ったので私は今、学校調査会の資料の基準のポイントというものがありますので、これを見ながらこちらも併せて大急ぎで見ていくところなのですが、それを踏まえて2点、イラストのことについておっしゃいましたが、イラストが子どもの集中の妨げになるのではないのかというのが基準になるとですね、それは裏を返すと子どもたちへ興味・関心があるからイラストを入れているんだという言い方も可能なので、一体その根拠は何なのかということになりますから、これを文言に入れるとまずいのではないかと。いかようにでも取れるということで、たまたまその議論ではそうなったということになり兼ねないのではないかなということを知りました。それから2点目はですね、第4地区のところ、日文が外的要素の③について優れているということをおっしゃっていて、ただ後に色合いとか配色等に何か工夫が必要である。でもこれは学校調査会の資料を見ると、圧倒的に日文の方が23と2という形で非常に優れているという数値の結果が出ているんですね。それがどのように整合をとれば良いかということを知ったのですが、その点いかがでしょう。

(事務局)

はい、学校調査会の最初の方なんですけれどもイラストにつきましては、調査の観点の際に、これを指導するうえで経験の浅い先生方がこの教科書を使って指導するときはどうなのかなという観点で調べられたところと比較的経験のある方が教科書を使うという観点で見たときに、どちらかというと経験の浅い方が教えられるときは、子どもたちの視覚に入るところにいろいろなものがあると集中しづらいのではないかとという観点からこのイラストの話が出てきたんです。ベテランは比較的、指導していくということを基本において調査をしていったのでたくさんの情報があれば取捨選択しながら指導できるので良いのではないかと意見が出てきたりしているところがあります。それが地区によって違いがあるということでございます。それから第4地区ですけれども日文の評価が高くて最後のところに表現が出ていたと言うところがあるんですけれどもこれは学校調査のところでは高くあるんですけれども、専門調査会での議論の中でこのような心配といいますか配慮がいるのではないかと意見が出てきたので説明をさせていただいているところでございます。

(委員)

そうすると、まず専門調査の中で出てきたと言うところで専門調査会の意見の中では全体としては優れているんだけれども、あえて課題を言えば、と言う話なんですね。

(事務局)

はいそうでございます。

(委員)

それなら理解できました。で、そういった文言のことの調整等々についてはこの後の各指導主事からご報告があると思うんですけれども、これをまた文言にまとめていく、それともこのままの資料を出していくということなんですか。事務局の方いかがでしょう。

(事務局)

失礼いたします。まず本日の資料ですけれども、資料のどこから見たらいいのかなと言うところがあると思います。まず今日は種目別にお話をさせていただこうと思います。地区調査会の資料を見ていただくと、それぞれ優れている点、工夫を要する点というところが細かく書かれています。それから文言の方ですけれども、今、種目担当からご報告もさせていただいている内容につきましては、学校調査会、専門調査会の結果の方も加味した中身ということになっております。学校調査会、専門調査会それぞれ地区ごとにしてお示ししていますので、答申資料作成に向けまして、言葉の精選につきましては、例えば今報告しました課題を要する点等につきましても敢えてそういうところも入れて、より教科書についてわかるような表記にしていきたいなと考えておるところでございます。よろしくお願いいたします。

(委員)

そうすると今それぞれ2名の指導主事からご報告があったんですけれども、それについて例えば具体的な者名をあげてこことここが優れていると言う形もこの報告の中にきちっと入れていくと言うことでしょうかね。それともうまくそのように見えるような表記に形にしていく。この後、具体的に各者、者名がわかるような形で明確な差異をつけた形で報告として上げていくという形なのか、この調査会の結果、詳細はまだ読めていないんですけれども、大体こんな感じなんですけれどもと言う報告の文言にしてあげていくのかどちらなのかなと思ってお聞きしました。

(事務局)

ありがとうございます。各者、特徴等々は調査会で調べさせていただいているところでございますが、今ここで種目担当の方から説明させていただくことについては、特に顕著に表れている内容について、教科書の者名をあげながら説明させていただいているところです。ですので、今、ここでご意見、ご質問いただいたりしたことにつきましても、答申案作成の資料として盛り込ませていただき、第3回の選定委員会の際にはお示しできるようにしたいと思います。

(委員)

わかりました。

(委員)

すいません。国語のところでも質問しようと思っていたことなんですけれども QR コードについてです。国語と書写もそうですけれども辞典的なものについてのインターネットにとぶようなものと書写の場合は、例えば「快晴」という字があって、ここに QR コードがあって私もやってみたんですけど、実際に習字で書いている姿が見えて、それを見ると筆遣いとかどこで止めないといけないとかどれくらいスピードをつけるのかというのがすごくよくわかって、これは中々良いなと思ったんですけども、同時に、これを家に帰って子どもたち全員が使えるということを前提にして学校でやって良いのかどうかとか、そのあたりのところの議論は、例えば国語とか書写の QR コードが話題になったときに、議論はありましたでしょうか。

(事務局)

QR コードについて先生がおっしゃった分についての議論があった地区も当然ございます。その際に、本市におきましては全ての家庭がアクセスを簡単にできる訳ではございませんので、これは非常に良いんですが全ての子どもが使えるというふうには考えないでいこうという議論はされております。ただ、確かに、これを使うと非常にわかりやすいという部分があるので、できる限り、例えば学校の中といいますか子どもが見えるように映すとか、そういうことは本市、様々な形で進んでおりますので積極的に使っていこうというふうな見解になっております。必ずしも家庭でという前提でやっている訳ではございません。

(委員長)

よろしいでしょうか。時間もあまりございませんので、書写については以上ということで、ありがとうございました。続きまして社会についてお願いいたします。

(事務局)

各地区の専門調査会の調査概要について報告します。第1地区では特に、「1 大阪市教育振興基本計画等との関連」の③の観点や、調査の観点「2 内容の取扱い」の⑤の観点について、どこの教科書出版者がより配慮された内容になっているか、主体的な学習活動を進めることができるような内容になっているかなどが議論の論点になりました。東京書籍については、「1 大阪市教育振興基本計画等との関連」の③の観点において、「どのように学ぶのか」が児童に分かりやすいように示されており、「つかむ」「しらべる」「まとめる」の項目を示し、問題解決の流れに沿った内容が掲載されているので、児童が主体的に課題を追求し学ぶことができる点で優れています。また、「2 内容の取扱い」の⑤の観点において、優れているところがみられました。社会的事象の見方・考え方を働かせて学習を深めるための「まなび方コーナー」を設ける工夫がみられます。本文中に「活用のポイント」を示し、漫画のキャラクターを目印として、社会的事象の見方・考え方を表しています。さらに、「4 構成・配列」の②の観点において、単元の学習のまとめについて、多くの具体的な活動例を示しており、学習をより深めることができる点が優れています。

教育出版については、「4 構成・配列」の②の観点において、優れている点が多いのが特徴です。特に、児童が主体的かつ対話的に学習できるよう「この時間の問い」が示されており、その解決の手立

てとなる資料や情報も適切に掲示されています。一方、「2 内容の取扱い」において、本文中の論説がやや主観的に感じられるところが数か所あり、指導者の知識や判断力が求められる点に、工夫・配慮を要するところが見られました。また、「3 外的要素」において、版型が大きく、やや厚くて重い点に、工夫・配慮を要するところが見られました。

日本文教出版については、「2 内容の取扱い」の③の観点において、優れている点が多いのが特徴です。特に、単元の導入で学習問題をつくり、単元の終末には獲得した知識を生かして学習を振り返るという構成になっているため、児童主体の問題解決的な学習を展開しやすくなっているところが多く見られます。また、「4 構成・配列」の①の観点において、資料も読み取りやすい工夫がされているため、読み取った情報を基に対話的な学びも展開しやすい点が優れています。一方で、各小単元の終末段階にあたる箇所、「ふりかえり」の場面が少ない為、学びが深まりにくい点に、工夫・配慮を要するところが多く見られました。

第2地区では特に、「1 大阪市教育振興基本計画等との関連」の④の観点や、調査の観点「2 内容の取扱い」の⑥の観点について、どこの教科書出版者がより配慮された内容になっているか、主体的な学習活動を進めることができるような内容になっているかなどが議論の論点になりました。東京書籍については、「1 大阪市教育振興基本計画等との関連」の④の観点において、「まとめる」学習活動の記述では、様々な表現方法でまとめる活動が示されており、伝え方を育成する工夫もされている点で優れています。また、「2 内容の取扱い」の⑥の観点において、優れているところが多くみられました。問題解決的な学習展開において、児童・指導者が学習の流れや学習内容の見通しをつかむことができるようにするために、「つかむ」「調べる」「まとめる」の記載が、各ページと中単元のまとまりごとに設定されています。各学年の内容に沿って学習の進め方について具体的に記述しており、これを参考に子どもたちは主体的な学習を進めることができるとともに、指導者、とりわけ経験の浅い若い先生にとっては授業づくりの指針となるものとなっています。さらに、「3 外的要素」の③の観点において、発達段階に応じて資料配置や量、大きさが工夫されている点が優れています。

教育出版については、「4 構成・配列」の②の観点において、優れている点が多いのが特徴です。特に、毎時間の学習における、「この時間の問い」と「次につなげよう」が記載されており、単元の中でつながりをもたせることができる構成になっている点が優れています。また、「2 内容の取扱い」の⑥の観点において、「まとめる」活動についてのガイドがあり、子どもたちが学習したことを整理したり、活かしたりして学習を進めることができる点が優れています。一方で、資料の配置について統一性がなく、児童によっては文章記述が読みにくくなっている点に、工夫・配慮を要するところが多く見られました。

日本文教出版については、「2 内容の取扱い」の③の観点において、優れている点が多いのが特徴です。特に、社会科の学習のしかたが示され、「話し合う」活動が記載されている点に関して、優れているところが多く見られます。一方、「3 外的要素」の②の観点において、文字のフォントが小さく、文章量が多く感じられる点に、工夫・配慮を要するところが多く見られました。具体的には吹き出し中の文書資料やインタビュー資料、説明資料等が特にフォントが小さくなっています。また、「5 資料・その他」の②の観点において、発達段階によっては読み取りの難易度が高い地図資料が多い点に、工夫・配慮を要するところが多く見られました。

第3地区では特に、「1 大阪市教育振興基本計画等との関連」の③の観点や、調査の観点「2 内

容の取扱い」の⑤の観点について、どこの教科書出版者が主体的・対話的で深い学びの授業改善に資するような内容になっているか、児童の体験的な学習活動を充実できるよう配慮しているかなどが議論の論点になりました。東京書籍については、「2 内容の取扱い」の⑥の観点において、優れている点が多いのが特徴です。特に、児童が見通しをもって学習することができるように、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」という問題解決の学習過程が設定され、各単元に明示する構成になっている点が優れています。また、「2 内容の取扱い」の③の観点において、各単元に社会科用語を解説する「ことば」のコーナーが設けられ、児童が知識を獲得できるような内容になっている点が優れています。一方で、資料活用後に、因果関係、理由等の追究活動をすすめる問題解決の流れとなっているため、学習の難易度がやや高い点に、工夫・配慮を要するところが見られました。

教育出版については、「4 構成・配列」の②の観点において、優れている点が多いのが特徴です。特に、単元ごとに「問い」を設定し、ページの終末に次の学習につながる内容が記載され、児童が学習内容の連続性を意識したり、次時への関心をもったりすることができるようにしています。一方、「2 内容の取扱い」の②の観点において、単元の学習が進んだ途中で学習問題作りが設定されているため、問題解決の計画が設定しにくい点に、工夫・配慮を要するところが見られました。また、「1 大阪府教育振興基本計画などとの関連」の③の観点において、単元の週末におけるまとめる段階に多いところが見られました。

日本文教出版については、「1 大阪府教育振興基本計画等との関連」の③の観点において、単元の冒頭に児童が疑問をもてるような資料が充実していて、児童が主体的に学習できる工夫もされている点で優れています。また、「5 資料・その他」の①の観点において、現代的諸課題に対応した資料掲載について、優れているところが多くみられました。さらに、「1 大阪府教育振興基本計画等との関連」の④の観点において、大阪に関連のある事例が多く取り上げられているため、児童が社会的事象を身近に感じ、学習意欲が高まるようになっています。

第4地区では特に、「1 大阪府教育振興基本計画等との関連」の③の観点や、調査の観点「2 内容の取扱い」の⑥の観点について、どこの教科書出版者がより配慮された内容になっているか、問題解決的な学習活動を進めることができるような内容になっているかなどが議論の論点になりました。東京書籍については、「2 内容の取扱い」の⑥の観点において、優れているところが多くみられました。学習の進め方では「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」が各単元に示され問題解決の見通しが持ちやすく工夫されています。また、「1 大阪府教育振興基本計画等との関連」の④の観点において、単元終末の「まとめる」学習では、多様なまとめ方の例を示しており、個に応じた学習を保障している点で優れています。さらに、「2 内容の取扱い」の③の観点において、重要語句については、同ページの本文外に「ことば」として取り上げ、その語句について補説している点が優れています。

教育出版については、「1 大阪府教育振興基本計画等との関連」の③の観点において、優れている点が多いのが特徴です。特に、小単元ごとに「問い」が示され、その問いの解決のために、何をどのように調べていけばよいのかが分かりやすく示されている点が優れています。また、見開きの最後には、「次につなげよう」というコーナーで、学習が連続するように工夫している点が優れています。一方で、「まとめる」学習では、みんなでつくった学習問題を振り返っていますが、板書例に掲載されていたり、しなかったりと分かりづらい点に、工夫・配慮を要するところが見られました。

日本文教出版については、「1 大阪府教育振興基本計画等との関連」の③の観点において、優れて

いる点が多いのが特徴です。特に、社会科の問題解決の見通しを持つことができるように、「疑問を見つける」「調べる」「まとめる」「つたえる」と提示し、問題解決的な学習の課程が分かりやすく構成されている点に関して、優れているところが多く見られます。一方、「2 内容の取扱い」の③の観点において、多くのコーナーを設け、子どもの学習の支援を工夫していますが「キーワード」コーナーと「むずかしい言葉」の内容が類似していたりして分かりにくい点に、工夫・配慮を要するところが見られました。また、「3 外的要素」において、高学年は上下巻がないため、やや重くなっている点に、配慮を要するところが見られました。以上で社会の報告を終わらせていただきます。

(委員長)

ありがとうございました。何かご質問、ご意見ありませんでしょうか。

(委員)

先程、国語、書写のときは、具体的に者名をあげられていたんですけれども、今、社会のところでは、どこがということはおっしゃいませんでした。もし、具体的にどこの者が優位であるとかそういうことがもしあればお聞かせいただきたい。あと2点あります。例えば、日本文教出版の中で文章量が多いということがありました。それから東京書籍の第3地区のときかな、学習の難易度が高いというような文言があったと思うんですけれども、これ主体的で対話的で深い学びの視点で見てるわけですよね。深い学びということは深い内容がないと深くならないんですけれども文章量がないということは知識がない、知識量がないということになるのではないかと、そうすると矛盾をしてはこないですかね。特に社会科の場合というのは難易度はかなり高くなっていくわけです、算数とかの教科に比べてですね。そうすると、深い学びをしましょうとみんなの視点で言っているのに「文章量が多いです。この教科書は。」という話になると、これは、ちょっとおかしな話になるのではないかという気がしましたがどのようにお考えになるのでしょうか。それから3点目、各地区の総評を聞いたときに大阪ならではの地域教材の視点というのが全く出てこなかったんですけれども、その点は何かあったのでしょうか。お聞かせいただきたい。具体的に例えばでいうとですね、今、3者の教科書を大急ぎで見たんですけれども、江戸時代のところの大阪の港のにぎわいですね、蔵屋敷とかそういったところですね。これについては各者、図表が取り上げられていたのは2者でした。1者は取り上げられておりません。蔵屋敷等が大阪の流通の起点、全国の物資の流通の起点になって非常に豊かな町が反映していったという意味では、非常に重要な学習のポイントとなるのではないかと思うんですけれども、そういう点、地域教材も含めて、どのように検討されたのかお聞きしたいなと思います。お願いします。

(事務局)

まず、1点目の文章量が多いであるとか、それぞれの専門調査会の指摘でございますけれども、専門調査会の方では、子どもたちの学びと同時に、若い先生方、経験の少ない先生方がどう授業づくりをしていくのか、そのときに教科書をもとに授業を作っていく際、その授業づくりが進めやすいかどうかというところもですね、非常に加味して検討されたということでございます。その中で、例えば日文の特に中学年の方でのフォントの小ささによる文章量の多さというのが、逆に1時間の中で深く読み取りがどこまでできるのかということが課題として考えなのではないだろうか。それから東書については、

これは、教科書の教材の中で言えば対話文の中で、そういった理由とか因果関係に係るような知識が盛り込まれているんですけども、問いに対する答えというような一問一答のような形では示されておりませんので、そういった授業づくりに悩む先生方において、その辺りのところが難しくなり、結果として子どもたちにとって難易度が高くなるのではないだろうかということころで課題としてあげられているということでございます。それから、地域教材の視点でございますけれども、こちらについては資料「定量的調査資料」（小学校用）の7ページをご覧ください。そちらの方に特に大阪の事例、大阪の人物等々を抜き出してページ等を示しておるものでございます。こういった各学年での地域教材が事例として載っているということでございます。

（委員）

ここからは意見ですけども、そうすると7ページを見たら、やっぱり各者特色が出ているということのはっきりしたんですけども、それが今のおっしゃったところの文言とか基本的な答申に結びついていかないとですね、根拠のある説明ができないのではないかと思います。その点ぜひお願いしたいというのと、よく現場で教科書を判断するときに、特に社会科に限っていうと文章量が多いからイラストを多いようにということがすごくよく聞かれたと私は聞いてきました。そういうことが繰り返されたおかげで非常に文章量が少ない社会科の教科書になってしまった、むしろ若い先生だからこそですね、文章量も知識もきちんと記述された教科書で教えるべきなのではないかというのが私の意見ですけども、そんなことを感じておりました。もう時間ですので、以上です。

（委員）

大阪の記述につきましては、第3地区の方で日文が大阪に関連ある事例が多く取り上げられているという記述がありましたね。これは、いいんじゃないかと思います。同じ第3地区ですが、これは、言葉の問題なので、どうということではないんですけども、単元という言葉の使い方ですけど、少なくとも我々が単元というのは数時間くらい、10時間とか5時間とかの学習のまとまりを単元というふうに、私はとっているんです。それでいくと東京書籍は、単元ごとに問いが書いてあるんですね。教育出版の方はね、単元ごとと書いてありますけど、各時間の問いになっておりまして、それでいくと日文もね、各時間にあたるところに割と細かく問いが散らばっていますので、これだけいうと教出だけは単元ごとに問いがあって、他はないような印象ですけど、ちょっと実態と違うのかな、それは言葉の使い方。第4地区は、単元という言い方をされていますけど、正確にはこれは時間、1時間のことですよね。果たして時間ごとということとは、先生にとっては1時間、見開き必ず1時間、こういう使い方してくださいって使い方しかできないんですね。他のところは多少、4ページぐらいいっても良いし、あるいは、その見開きを2時間くらいで扱っても良いとなっていますけど、この教出だけは、固定して必ず見開き1時間でやってくださいという、それが時間ごとの問いという言葉があるので、かなりこれは、先生は、強制的に縛りがあるように感じられるのではないかなと思いました。その辺のところちょっとどうかなと思ったんですが、これはもう感想ですので、質問ではないです。

（委員長）

ありがとうございました。時間がございませんので、社会の方はこれで終わりたいと思います。続き

まして、地図の方に移りたいと思います。よろしくお願いします。

(事務局)

失礼します。各地区の専門調査会の調査結果について報告させていただきます。第1地区では、「3 外的要素」や「4 資料・その他」など、地図の見やすさなどの視点が大きな論点になりました。まず、東京書籍については、イラストが多く使われ、親しみをもちやすいキャラクターの一言が児童の興味をひく内容になっており、児童が主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されています。また、QRコードの配置等、ICT活用の配慮もなされていて、資料活用の指針となっております。一方、日本地域図については、土地の高低差をわかりやすく色の濃淡で表現していることで、かえって文字を見にくくする事にもつながっているという面があります。総評以外では、「2 内容の取扱い」や「6 資料・その他」の観点で、歴史学習等の関連が工夫されていることも注目されていました。

続いて、帝国書院については、QRコードで動画や地図資料等のコンテンツを配置するなどICTの活用もあり、児童が地理的関心を高め、主体的に探究できるよう工夫がなされています。また、3年生から6年生までの社会科の学習内容に対応したバランスのよい内容構成になっており、特に中学年における地図の活用スキルについての内容は、充実したものとなっております。総評以外では、「1 大阪市教育局教育振興基本計画との関連」に関し、防災についての取扱いが充実していることも注目されておりました。

第2地区では、「1 大阪市教育局教育振興基本計画」や「2 内容の取扱い」の②など、3年生から地図帳を使用するという視点が大きな論点となりました。まず、東京書籍については、3年生からの地図帳を活用した学習内容を踏まえ、発達段階に応じた地図学習ができるようになっております。世界全図は、初めて地図帳に触れる3年生に配慮し、絵図で構成されています。また、表紙に地方の写真を取り入れ児童に親しみやすい装丁になっています。地図はメリハリの利いた色の使用で見やすく、文字についてもフォントにユニバーサルデザインを採用するなど読みやすく工夫されています。一方、地図資料の案内キャラクターが多く、児童の思考に与える影響に配慮を要する面があります。総評以外では、「4 構成・配列」や「5 資料・その他」の観点で、歴史学習等との関連が工夫されていることも注目されておりました。

続いて、帝国書院については、3年生から地図帳を活用することを踏まえ、地図記号、方位、縮尺についてわかりやすい表記となっています。また、広く見渡すことのできる地図として160万分の1の地図は児童の発達段階に配慮されております。大阪の地図については縮尺が20万分の1まで扱われていて、中学年で活用がしやすく工夫されています。文字についてもフォントにユニバーサルデザインを採用し読みやすく工夫されております。

第3地区では、「1 大阪市教育局教育振興基本計画」の③や④など、児童が親しみやすく使えるかという視点が大きな論点となりました。まず、東京書籍については、日本の歴史と関連づけた各時代の世界の地図資料を掲載するなど、社会科の教科書の補完や発展的な内容に対応できる構成や内容になっています。巻末の統計資料は、様々な観点に着目した統計が掲載されており、論理的思考力や判断力を育成できるよう工夫されています。一方、地形と文字の色使いにより、地図の要素を判別する際に配慮を要し、読み取りづらい部分があります。

続いて、帝国書院については、地図学習の手がかりとして、「地図マスターへの道」が設定されてお

り、児童が主体的・対話的に学習を深められるよう編集されています。また、等高段彩や土地利用などの地図表現が全体的に見やすく、地図の要素が読み取りやすくなっているなど、ユニバーサルデザインに関して、さまざまな児童の発達段階や特性等に配慮した表記となっています。さらに、QR コードを通じて読み取る補完資料が充実しており、ICT を活用しながら、実社会・実生活と関連付けながら学習の理解を深められるよう工夫されています。

第4地区では、「2 内容の取扱い」や「3 外的要素」など、地図の見やすさや発達段階に応じた使い方の視点が大きな論点となりました。まず、東京書籍については、地図を見るうえで必要な情報の説明が分かりやすく、縮尺の表し方や、陸地の高さ、海の深さの説明も立体図イラストで分かりやすく工夫されています。また、地図としての精密さが各ページにあり、地方図では、小さな市町村名まで細かく入っています。その反面、文字が多いうえ濃い山の色と重なっている部分があり、児童にとって調べる活動において配慮を要する面があります。

続いて、帝国書院については、3年生で町の様子を学習する単元から地図で表す活動へと進めていくうえで、地図の約束事などが詳しく書かれており、児童が親しみをもちながら地図帳を活用できるよう配慮されています。また、写真、グラフや統計など論理的思考を養い表現するための資料が多く、地図の各ページに二次元コードを使って調べたい地図の拡大や切り取りができるよう工夫されているなど、ICT 活用にも工夫されています。総評以外として、2者共通ですが、折込のページの耐久性について、扱いに配慮を要するという意見がありました。以上で地図の報告を終わらせていただきます。

(委員長)

ありがとうございました。何かご質問、ご意見ありませんでしょうか。よろしいでしょうか。ないようですので、地図については、これで終わりにしてよろしいでしょうか。ありがとうございました。続きまして、算数についてお願いいたします。

(事務局)

失礼します。各地区の専門調査会の算数の調査内容について報告します。6つの教科書会社を調査している中で、どの地区においても東京書籍、啓林館、日本文教出版の評価が高くなっており、それ以外の教科書とは大きく差がひらいていました。報告としては、各地区において特に評価の高かった2者について注目してご説明させていただきます。

第1地区では、特に主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善という視点に重点を置き議論しています。東京書籍では、主体的な学びを進められるよう生活の中で算数を見つけたり、既習の内容を振り返ったりする活動が取り入れられています。目次には関連する内容として、これまでの学年と今後の学年の学習内容が明記されていたり、単元の終末では、算数を生活に活かす学習活動（「いかしてみよう」）や単元を通して育った数学的な見方・考え方を振り返る学習（「つないでいこう算数の目」）が用意されていたりして、他には見られない工夫が見られます。しかし、吹き出しや記号などを多用することによって、1ページあたりの情報量が増え、必然的に図や表などの扱いが小さくなってしまっている部分があります。

啓林館は、教科書の最初のページに教科書の使い方、1時間の学習の流れ、ノートを取り方などが紹介されていて、見通しをもって学習に取り組むことが出来るようになっています。主体的・対話的で深

い学びの実現に向け、単元のはじめの「じゅんぴ」のページで、日常的な場面から算数に取り組むことができるようになっていきます。巻末には、「算数資料集」を設け、自分の考えなどを説明する話型や、関係図、数直線の書き方などが用意されており、子どもたちが学習に取り組みやすいように資料を充実させています。

次に第2地区では、特に主体的・対話的で深い学びの実現、教科横断的な視点に重点を置き議論していました。東京書籍では、ノート例をとおして、友達の考えを書いたり、まとめを書いたりすることが示され、対話的な学習の実現が図られているとともに、総合的・発展的に考える力を養うことができるよう工夫されています。2年生以上では、巻末に「おもしろ問題にチャレンジ」を設けて、発展的な内容や日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けることができるよう工夫されています。吹き出しにヒントが多く主体的に学習を展開することには配慮が足りなかったりする部分があります。

日本文教出版では、「学び方ガイド」が設けられ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に資するよう配慮されております。補完的な内容と応用・発展的な内容がバランスよく扱われており、数学的な面白さを獲得できるよう工夫されています。算数で学んだことを日常生活や他の学習に活用しようとする態度を養えるよう工夫されています。

第3地区では、特に主体的・対話的で深い学びの実現、教科横断的な視点に重点を置き議論していました。東京書籍では、1時間の流れが分かるよう、めあてや見通しなどの項目が明確に示されており、児童が安心して学習に取り組めるようになっております。また様々な形で、日常生活の中における疑問や問題意識を生み出す工夫がなされており、児童が自主的に取り組むことができる構成になっております。資料についても日常生活場面に即しているものが多く、児童の興味関心を持たせやすいものとなっております。

日本文教出版では、データを集めて調べる方法や、学習の流れが掲載されており、データの活用による問題解決学習に取り組みやすくなっています。また、既習事項を新しい単元前に確認し、単元の終わりには学習したことを確かめる工夫がされており、基礎的・基本的な学習内容の定着につながっていきます。話し合う観点や考える手順の説明が少ないため、算数が苦手な児童には配慮を要します。

最後に第4地区では、児童が意欲を持てるか、適切な資料があるかといった観点に重点を置き議論していました。東京書籍では、児童が主体的に学習できるよう、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、さし絵や写真などを多く配置し、生活場面から算数をイメージしやすくし、また、各時間のめあてやまとめを明記、考えを伝え合う時間や深い学びの時間の設定がされています。単元の最後には、「つないでいこう算数の目」や「いかしてみよう」で数学的な見方・考え方を働かせ、生活場面に活用させることで、算数のよさを味わえるような場の設定がされています。巻末に学習で用いる教具の付録がつけられ、ミシン目に沿って切り取るだけですぐに使えるようになっています。巻末の練習問題のページでは、2種類あり、児童の実態に応じて活動内容を変えられる工夫がされています。

日本文教出版では、学習に必要な既習事項が確認できるように「次の学習のために」のページが設けられており、巻末にも前学年までの既習内容がまとめて掲載されています。問題文の文字が大きく太字で見やすく、挿絵や写真が多く視覚的にとらえやすいように配慮されています。具体物の操作をする際に、操作しにくいページ割がされていることがあります。以上で算数の報告を終わらせていただきます。

(委員長)

ありがとうございました。何かご質問、ご意見ありませんでしょうか。はい、どうぞ。

(委員)

これもどういう書き方かという問題になるんでしょうけれども、一応3者が特に優れていたということはわかったんですけども、その3者の中からどれかを決めないといけないので、それもある程度軽重をつけたうえで報告としてあげていかないと役割も果たせず、上のほうでも根拠をもった形で決定ということに至らないと思いますので、詳細には読んでいませんけれども、見た感じでどこが良いのかということが何かわかるよう形で、はっきり反映させていくということがいるのかなと思いました。

(事務局)

ありがとうございます。

(委員)

ノートに対するコメントについてコメントさせていただきたいと思うんですが、第1地区では、啓林館にノートのとり方が紹介されているとあるんですが、啓林館だけで東書はないのかなと思ったら、今度は、第2地区を見るとですね、第2地区の算数では、東書はノートが書いてあって啓林館はノートがないんですよ。ということで、見ましたら、結構ノートは各者ともにですね、大日本図書は、やっぱり見開きで、毎学年こういうふうになノートのことを書いてありますし、これは「算数マイナビ」という書き方で、それから啓林館の方は、「わくわく算数ノート」という見開きで、こうやっていますね。それから東京書籍の方は「マイノート」というのでやっています。各者、それぞれ、中には、そっけない教育出版はこれしかないとかね、そういうところはあるんですけども、2ページ使ってやっているとこもあるので、ちょっと公平にパッと見た目にね、これはおそらく教科書の会社の方でもご覧になると思うので、この取り上げ方は不公平ではないかと言われるとちょっと辛いところがありますので、そういう配慮をしていただくと良いのかなと思いました。

(委員長)

はい、ありがとうございました。それでは、時間もございませんので、次参りたいと思います。算数の方、ありがとうございました。続きまして理科の方、よろしくお願いいたします。

(事務局)

専門調査会の調査概要について報告します。各地区とも、調査の観点「2 内容の取扱い」の② 問題解決の力を養う、③ 主体的に問題解決しようとする態度、⑤ 問題解決の活動の工夫について、また「3 外的要素」の① 教科書の大きさ、② 文字のフォント、④ ユニバーサルデザインについて、を中心に、どの出版者が配慮された内容になっているか、また、新しい学習指導要領に沿った取扱いをしているか、などが論点になりました。まず、第1地区です。大日本図書は、既習の内容から、児童が主体的に問題を発見し解決しようとする態度を養うことができるよう配慮されています。予想の根拠を述べる重要性を対話例でわかりやすく示しています。しかし、提示されている実験内容に課題も見られ

ます。例えば4年の筋肉の動きの実験では、腕を曲げた時の筋肉の縮み・ゆるみを、正しく理解できない可能性があります。121 ページに牛乳パックで作っている実験です。教育出版は、各章の冒頭部分が簡潔で見やすく、各学年の学習内容を把握できるように工夫されています。「予想の結果」を見通すことの大切さが示されています。しかし、防災の視点から必要不可欠の実験、例えば5年の流れる水の曲がった場所でののはたらきについての実験が取り上げられていません。巻末資料に発展的な部分が含まれており、中学で学ぶ内容が入っております。啓林館は、「問題」「まとめ」の見出しが同じ色で、各場面が矢印でつながり、問題解決の流れがわかりやすいです。まとめから次の問題発見へと連続するようにも工夫されています。「ふり返ろう まとめノート」というページで、学習の内容や過程を振り返られるところが優れています。

続いて、第2地区です。東京書籍は、問題解決の過程を児童が意識しやすい配置になっており、写真も内容・質ともに児童の好奇心や疑問を抱きやすいものが採用されています。しかし、冊子が大きく重いため、屋外では使いづらくなっています。大きさの割に空白が目立ちます。大日本図書は、問題解決の過程が分かりやすいレイアウトになっており、問題の前に体験活動を紹介していることも多く、問題が生まれやすい展開になっています。しかし、児童の話し合い活動の、予想・計画・考察の場面では、言葉のやりとりが目立ち、イメージの共通点や差異点が伝わりにくい部分もあります。

啓林館は、問題発見、予想、計画、観察・実験、結果、考察、結論、生活化、もっと調べたいこと等、問題解決過程を重要に扱っています。写真や挿絵、文章の記述等が適切です。人権に配慮した箇所が多数みられ、挿絵に車いすや外国人が出てくるように、多文化共生の視点をもって構成されています。

続いて、第3地区です。東京書籍は、単元の導入では、児童の気づきや疑問から問題発見・問題解決ができるよう工夫されています。例えば5年のふりこの導入は、曲のテンポに合わせたふりこづくりとなっております。思考の場面对話例の吹き出しがあり、対話的な学びの充実へつなげています。しかし、判型が大きく、児童机で作業スペースをとるため配慮を要します。大日本図書は、複数で話合っている場面が掲載されており、対話的な学びにつなげられます。さまざまな記号や絵で、ESD や環境などの関連を説明してありますが、その記号にそって、どう学習していけばいいのか、分かりにくい部分もあります。動画検索のリンク先の掲載が小さいため、利用しにくいとの意見もありました。

啓林館は、主体的に学びに向かえるよう導入を工夫しています。ヒントは少なめですが、学習したことを思い出せる画像があります。学習の振り返りの場面が多く、活用問題では身近な事象を科学的な視点で考えることで、深い学びにつなげることができます。例えば、5年の花から実への学習後に、イチゴ畑にミツバチの巣箱がある理由を考えるなど、学習内容と日常生活のつながりが実感できる話題を多数紹介しています。

続いて、第4地区です。東京書籍は、単元の冒頭にレッツスタートというページがあり、身近な生活の中から問題を見いだしたり、学習内容をふり返って学んだことを生活に生かしたりして、児童が主体的に学ぶ展開になっています。しかし、一部の単元の構成や配列に、大阪市の実態に合わない部分、例えば「魚のたんじょう」と「人のたんじょう」が離れていて、関連して学習しにくいとの意見が出ました。教育出版は、児童が主体的に問題解決の流れで学習できる様々な工夫が見られます。環境問題に係る資料が多く、環境教育への配慮が十分になされています。しかし、単元の構成や配列に、学校現場の実態に合わない部分、例えば「天気の変化」が4月の配当で、様々な種類の雲を観察しにくいこと

や、教科書が比較的重いとの意見がありました。

啓林館は、冒頭に「はじめに考えてみよう」という画像があり、身近な生活の中から問題を見いだしたり、学んだことを生活に生かしたりすることができ、児童が主体的に学ぶ展開になっています。問題解決の順序で学ぶ工夫がなされ、色分けや矢印で視覚的にわかるようにしてあるため、学ぶ力の育成に効果的です。以上で、理科の報告を終わります。

(委員長)

ありがとうございました。何かご質問、ご意見ありませんでしょうか。

(委員)

第4地区の啓林館ですが、ピンクの表紙の116ページ、総評の中で「資料の一部で『不適切な部分』」という言い方があります。これまでは、「合わない」というような言い方を使っておられたのを「不適切」という言い方をしているのが気になりまして、具体的にどのようなところでしょうか。

(事務局)

すいません、もう一度確認して回答したいと思います。次回、回答いたします。

(委員)

質問ですけど、啓林館の教科書が、例えば外国人とか車いすの子どもに配慮したイラストがあるということで、これはすごいと思って今見たんですけど、5年生の179ページに車いすの子どもと含めて4人の子どもたちが話合っている絵があるんですけど、それ以外にちょっと車いすや、外国人のものがまだ見つかってないんですけど、ここまで特記するほど、例えば、どの学年のどの教科書をとっても車いすの子どもがいるとかね、外国人の姿が写っていたら良いんですけど、ちょっと特記するには頻度が少ないのかなというふうに思ったんですがいかがでしょうか。

(事務局)

また、具体的に何年の何ページという形で、次回、報告いたします。

(委員長)

はい、それでは次回の方でお願いします。他、ございませんでしょうか。よろしいですか。はい、それでは、理科が終わりましたところで一旦、休憩を取らせていただきたいと思います。見本本やアンケート等も自由にご覧いただけたらと思いますが、ただ時間が押しておりまして、本来15分とらせていただきたところなんですけども、3時15分スタートでよろしいでしょうか。ご協力いただけたらと思います。3時15分開始ということでお願いいたします。はい、それでは一旦、休憩に入ります。

(委員長)

生活についてお願いします。

(事務局)

各地区の専門調査会の調査概要について報告します。第1地区では、特に、「1 大阪市教育振興基本計画等との関連」の③④の観点や、調査の観点「2 内容の取扱い」の①～③の観点について、論理的思考力・判断力、豊かな表現力等を育成するような取扱いになっているか議論の論点になりました。東京書籍については、「1 大阪市教育振興基本計画等との関連」の観点について、低学年の児童が学校生活に慣れたり、他者と共同して過ごしたりするために必要な情報が具体的でわかりやすく紹介されていました。例えば、「かつどうべんりてちょう」を手がかりにして、習慣や技能などを身につけられるよう配慮されています。また、身近な人々や社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度について適切な内容が取りあげられています。幼児期の終わりまでに育てたい10の姿をイメージしやすいように写真やイラストを効果的に使うことができています。他にも、工夫・配慮を要する点については、全ての項目において少ない結果でした。

啓林館については、「1 大阪市教育振興基本計画」の③の観点において、優れている点が多いのが特徴です。特に、主体的・対話的・深い学びにつながるように、単元導入を「わくわく」とし写真や問いで構成したり、主な活動を「いきいき」とし、見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなど対象に直接働きかけたりする学習活動を大切にしています。また、表現活動を「ぐんぐん」とし、他教科との関連を図りながら、言葉・絵・動作・劇化などの表現活動例を例示しています。写真をたくさん掲載していますが、文字による説明やヒントが少ないため、論理的思考を高めるための判断力を育てるには、写真の取扱いに工夫が必要です。

第2地区では、特に、「1 大阪市教育振興基本計画等との関連」の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた観点や、調査の観点「2 内容の取扱い」の①～③の観点が議論の論点になりました。東京書籍については、「1 大阪市教育振興基本計画等との関連」の観点について、「がっこう せいかつ すたあと」を設定し、児童と保護者に生活科についてがわかるガイドや入学当初の授業の特色を示す工夫がされています。幼児期の終わりまでに育てたい10の姿をイメージできる工夫がされていますが、スタートカリキュラムの分量が多く、指導に工夫が必要です。上下巻とも、発言の例が吹き出しでたくさん示され、思考力・判断力、表現力が育つように配慮されています。啓林館については、「1 大阪市教育基本計画」の④の観点において、優れている点が多いのが特徴です。例えば、思考ツールが使われている板書例が掲載されており、児童が論理的に考えることができるように配慮されています。発表などで使用している写真は掲載されていますが、使い方や活用の仕方の情報量がもう少し具体的にイメージできるようにする必要があります。

日本文教出版については、「1 大阪市教育基本計画」の④の観点において優れている点が多いのが特徴です。例えば、「考える技法」が紹介され、児童の発達段階に応じた論理的思考力・判断力の育成に効果的で、「ふりかえり・つなげる」のコーナーでは、活動の振り返りが新たな活動の意欲につながるような表現になっていることから、主体的な活動が連続発展し、深まっていくのに有効です。また、生き物図鑑の構成も分かりやすく提示されています。スタートカリキュラムのページであると明確に位置づけられ、写真やコメントを通して、幼児教育との円滑な接続ができるように多様な活動について工夫されています。

第3地区では、特に、「1 大阪市教育振興基本計画等との関連」の④の観点や、調査の観点「2 内容の取扱い」の①～③の観点について、豊かな表現力や自らの意欲や自信をもって学んだり生活を豊か

にしたりしようとする力等を育成するような取扱いになっているか議論の論点になりました。東京書籍については、「1 大阪市教育振興基本計画等との関連」の観点③④について、豊富な資料であることに加え、はっきりとした色合いの美しさや、資料画像の大きさ、配列などが子どもたちにとって見やすい教科書になっており主体的な学びにつながるものとなっています。また、教科書の端には、「やくそく」という欄があり、子どもたちがその単元の中で大切なことを話し合うことができる主体的・対話的内容になっています。また、かんさつカードは、かきかたや大切な視点を書き入れたものとなっており、子どもたちにとって、活動しやすい良い参考資料です。

啓林館については、「1 大阪市教育振興基本計画」等との関連の④の観点において、優れている点が多いのが特徴です。「みんなであそぶ」「生き物とふれあう」「たいせつないのち」「ひろがれえがお」など、他者や生き物を通して、豊かな心を育む一冊となっている。単元によっては、思考力を可視化できる思考ツールなども参考資料として提示しており、論理的思考力を育成することに配慮されています。また、単元と単元のつながりが感じられる内容となっているだけでなく、道徳などとの関連させやすい内容が多くなっています。文章が少し多く、発達段階によっては興味・関心をもたせることに工夫が必要な単元があります。

第4地区では、特に、「1 大阪市教育振興基本計画等との関連」の③の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた観点や、調査の観点「2 内容の取扱い」の②③⑦の観点について、豊かな表現力や自らの意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする力等を育成するような取扱いになっているか議論の論点になりました。東京書籍については、「1 大阪市教育振興基本計画等との関連」の観点③について、例えば、「学びをふかめる」というコーナーで気づきの質を高める深い学びの姿が具体的に示されており、また、ICTの活用や子どもの学習活動について、思考ツール等を活用して示した板書などが授業風景として示されており、授業改善につながるよう工夫されています。また、挨拶、言葉遣いなどが、子どもの具体的な姿で随所に示されたり、資料として掲載されたりしていることで道徳的生活習慣の育成につながるように配慮されています。スタートカリキュラムとして上巻の最初に他と違う構成で示されており、入学当初の指導に使いやすく工夫されています。

啓林館については、「1 大阪市教育振興基本計画」の③の観点において優れている点が多いのが特徴です。「わくわく いきいき ぐんぐん できるかな できたかな。ひろがる 気持ち」など生活科の学びの過程が示されており、主体的で対話的で深い学びが実現できるように配慮されています。学習過程や成果を振り返り、自らの成長や学びの深まりを実感できるよう工夫されています。ただ、スタートカリキュラムにおける学校探検が学校全体での取組となるための工夫を考える必要があります。また、子どもの日常生活から単元が始まり、指導者の支援の仕方も例示されており、子どもにとって学びやすく、指導者にとって教えやすい工夫がされています。

日本文教出版については、調査の観点「2 内容の取扱い」の③⑦の観点について優れている点が多いのが特徴です。衛生面のへの配慮、災害・防災・減災への配慮 安心安全のページ、道具の使い方、調べ方、記録の仕方、交流方法、まとめ方、表現方法など、生活上必要な習慣や技能を身に付ける工夫がされています。イラスト・写真の色が鮮明であれば、より児童の興味や関心を高めることができます。また、ワークシートの位置を固定化するとより児童にとって見やすい配慮となります。以上で生活の報告を終わらせていただきます。

(委員)

2点おうかがいします。大阪市のタブレットはすでに各学級児童1人1台の配置はされていますか。

(事務局)

基本40台です。

(委員)

第2地区のところ啓林館のところにタブレットで大阪市の状況に物足りなく感じると書いてあるんで、同じく第2地区のところについては特に、資料3の方のまとめでは、大阪市教育振興基本計画の関連は、大阪市のタブレット活用場面が少ないと第2地区に書いています。堪能な先生がいらっしゃって、こういう文言があがってきていると思いますが、これはあくまでも教科書の選定ですので、別の問題であると思います。こういう形でいくと方法的なものなもので、他の教科も全部学習指導要領に書いてありますから、教科書の範囲を守っておくほうがいいというのが意見です。

もう1点です。生活科ですよ。6・7・8歳児。生活科の論理的思考とはどういうことを指すのでしょうか。

(事務局)

直接体験を伴って、子どもたちに内発的な動機付けがあると思うんです。場面で出会った中で、子どもたちがそれぞれの方向性を自分が体験する、体験の方が先に出てくるので、言葉で表現するというよりも体で表現するという、どちらかという活動の中で身に着けていくような論理的思考の場面が考えられるかと。

(委員)

そうですね。それは、ロジカルな考え方と言うか、生活科での気づきであるとか、そういった文言の方がいい。同じようなところのパターンでいくと、例えば、算数や高学年の理科とかで論理的思考という言葉が出てこなかったのに、なぜに低学年の生活科というふうになる。そのあたり言葉の意味を少し変えられて、記載してほしいなと思いました。

(事務局)

ありがとうございました。

(委員)

生活科こそ、車いすの方とか、あるいは多文化共生とか、直接扱うというか、もっと言うと自然に扱われているべきであると思われます。コメントに大阪らしさとか多文化共生とか人権とかそういう配慮がよくでてくるのがちょっとないのがどうなのかな。そういう観点でいうと教科書会社に特徴があって、かなり意識しているとかすれすれの線で書いているとかいろんなそのあたりのところ、議論にならなかったでしょうか。

(事務局)

多文化共生とか地域の特色とかも、ブロックによっては出ているのですが、そこよりも授業をどう組み立てていくかというところに視点が中心になってしまいまして、まったく出てないわけではなかったんです。

(委員)

今、話題になっているのは、授業のトピックとして異文化理解を扱うとかいうのももちろん生活科そういう単元があるのですが、むしろ我々が言っているのは、隠れたカリキュラムだね。全然人権とか多文化と関係ないところで、チラチラと車いすの子が出てきたりだとか、明らかに南米からきている子どもたちの絵や写真が当たり前のように入っていたりというのが実はすごく教育の力として大きい。教科書の在り方と言うのを議論すべきかなと思います。

(委員長)

それでは生活の方終わらせていただきます。続いて音楽お願いいたします。

(事務局)

各地区の専門調査会の調査概要について報告します。第1地区では、特に、「1 大阪市教育振興基本計画等との関連」の③や「4 構成・配列」の①の観点において、児童の発達段階や特性を踏まえ、どちらの教科書出版社がより工夫・配慮された内容になっているか、などが議論の論点となりました。教育出版では、児童が主体的かつ対話的に学習できるような内容が工夫され、音楽的知識や技能のスキルアップにつながる配列となっており、発展的に扱う楽曲も充実しています。しかし内容として指導者の力量・専門性が必要となる内容となっています。

教育芸術社では、児童の発達段階に応じて系統立てたねらいと内容が工夫されています。また、年間授業時数にも見合った内容で、親しみのもてる資料や楽曲を選曲しており、指導者も取り扱いやすい内容、構成となっています。

第2地区では、教育出版について、全体的に新しい教材を取り入れ、児童が興味・関心を持って学習に取り組む工夫がなされている点や、英語の歌をはじめ国際色豊かに教材が配列され、教科横断的なカリキュラムを可能にしている点で、優れています。例えば、「4 構成・配列」にあるように、ショートタイムラーニングという英語の歌や九九の歌を楽しく学習できるように設定しており、教科横断的に指導が可能となるよう、工夫がなされています。

教育芸術社では、全体構成において教材と各領域の関連性や系統性が分かりやすく示されています。また、図形楽譜や音階、楽器の奏法などが分かりやすくなるような配慮がなされ、例えば、新しく学ぶ楽器が登場した際、楽器の奏法や指使いの番号などを、絵や写真で分かりやすく示しています。一方、グローバル社会の観点から取扱っている楽曲の国や地域が少なく、配慮を要する点としてあげられています。

第3地区では、特に、「4 構成・配列」の②の観点について、論点になりました。教育出版について、身に付けたい知識・技能が、すべての楽曲の最初に掲示され、「音楽のもと」として共通事項を示し、明確にめあてをもって学びを進めることができる一方、「4 構成・配列」において、学年の目標や内容

を踏まえての効果的な指導を行うには、構成配列がわかりづらいという点があります。

教育芸術社について、1年間の学習の見通しや、次の学年につなげられるように6年間を通して系統立てた配列になっており、優れている点がみられました。「4 構成・配列」にも、巻頭に配されている「学びの地図」は1年間の学習の見通しを持つことができ、巻末には「振り返りのページ」が配され、基礎・基本の知識や技能の定着が図れるよう全学年を通じて一貫して工夫されています。

第4地区では、教育出版について、「1 大阪市教育局振興基本計画等との関連」の③の観点での「学び合う音楽」として学習の仕方が示されている点が優れているのが特徴的ですが、小学校用としては、やや専門的で高度な内容のため、「児童の発達段階や特性等を踏まえる」、という観点では配慮が望まれるところが見られました。

教育芸術社について、「2 内容の取扱い」の①③⑥⑦の観点での、取り上げられた教材や題材が、学習活動を通じて「身に付けるべき力」をわかりやすく示し、新学習指導要領の観点をより意識した内容となっています。以上で音楽の報告を終わらせていただきます。

(委員長)

ありがとうございました。なにかご質問ご意見ないでしょうか

(委員)

専門的な教育、専門的な高度な学びであるとか第1地区では、発展的に充実しておりというようなことが書いてあるんですが、これは主観的、先生方がこう感じられたということなんでしょうが。たとえば、専門的なとか発展的なというのはどういうことなんでしょうか具体的に教えてください。

(事務局)

例えば、調整の関係であつたりすると、シャープの数がいくつあるとかフラットの数がいくつある、より高度になっていくところがございます。リズムをつかう点に関しても、たくさんリズムを使うことによって、より高度な音楽をつくることができるんですが、学ぶためには、たくさんの要素がありますので、その点についてより高度になっているという点でございます。

(委員)

その点は、深い学びということととらえていいのでしょうか。

(事務局)

はい。きちっと学習をすることができれば、高度な点ではあるのですが、深い学びにも到達すると思います。

(委員)

たぶん教科書の深い学びということがあるかないかで、なかったら全く指導しないという可能性が出てくるわけで、あれば、指導しようとして工夫していく、これは他の教科書でも言えると思うのですが、そのあたりがポイントになるかと思い、質問させていただきました。

(事務局)

ありがとうございます。

(委員)

音楽の大阪、文化で見させていただいた。伝統音楽でたとえば、和太鼓、大正区では、エイサーとか少なくとも10年ぐらい前までは、小学校の運動会でも割と扱われていた。そういう絡みでね。教科書を観点で議論されましたでしょうか。

(事務局)

記述にはないのですが、和太鼓につきましても、器楽のところに太鼓のたたき方。口承で学習できるようにどちらの教科書にも載っております。

(委員)

両方とも。片方には書いてあるが、片方は書いてないなと思ったんですが。判断されたのは同じくらい書いてあると。

(事務局)

はい。

(委員)

わかりました。

(委員長)

他、ございませんでしょうか。では、続きまして図画工作よろしくお願いいたします。

(事務局)

各地区の専門調査会の調査概要について報告します。第1地区では、特に、調査の観点「1 大阪市教育振興基本計画等との関連」の⑤の観点や、「2 内容の取扱い」について、どこかの教科書出版者がより配慮された内容になっているか、新しい学習指導要領に沿った取扱いがあるか、などが論点になりました。開隆堂につきましては、「2 内容の取扱い」について、豊かな表現力を育成するように、絵や立体、工作、鑑賞などの領域の配分もよく考えられており、概ね、1年生から6年生までの学習すべきことは網羅されており、また、主体的・対話的で深い学びについても考慮されているという報告でした。一方で、「1 大阪市教育振興基本計画等との関連」の⑤の観点である、やや道徳的な内容の関連が弱いこと、「2 内容の取扱い」において、造形遊びや工作の内容の扱いがやや少ないこと、「4 構成・配列」において、作品の配列が題材によって違い、統一性に欠けるという意見が出ました。

日本文教出版につきましては、「1 大阪市教育振興基本計画等との関連」の⑤の観点について、例えば、多文化共生の視点を入れた「がいこくのともだちのえ」の掲載があるなど、道徳との関連もきち

んと示されているという意見がありました。「2 内容の取扱い」については、新学習指導要領にある知識やイメージなど共通事項に関する内容が掲載され、また、どの学年でも児童が主体的に発想・構想し、思考力を伸ばすことのできる内容が掲載されていることも挙げられました。その他にも、「3 外的要素」において、写真が鮮明で見やすく、親しみやすい内容であり、学校現場の実態によく合っていることが報告としてありました。

次に第2地区では、特に、調査の観点「1 大阪市教育振興基本計画等との関連」と「2 内容の取扱い」について、どこの教科書出版者がより配慮された内容になっているか、新しい学習指導要領に沿った取扱いがあるか、などが論点になりました。開隆堂につきましては、調査の観点「1 大阪市教育振興基本計画等との関連」にも合っている内容が多いという意見があり、学年の発達段階に応じた内容が考えられているという報告がありました。また、「2 内容の取扱い」について、児童が「やってみたい」「おもしろそう」と思える題材が多く紹介されており、児童に興味関心を持たせる内容が多いことや、他者と比較して、これまであまり見られなかった新しい題材の開発がされているという意見がありました。

日本文教出版につきましては、調査の観点「1 大阪市教育振興基本計画等との関連」の観点にある発達段階の特性や、題材の系統性を考えた構成になっており、各題材の中で資質・能力の三つの柱に基づいた学習のめあてが児童にも分かりやすい言葉で示されていることで、児童が主体的に学べるよう工夫されているという報告がありました。特に工夫、配慮を要する点において、新しい題材の開発という点では、以前のものとかわらない題材が多いと感じたという意見がありました。

次に第3地区では、特に、調査の観点「1 大阪市教育振興基本計画等との関連」、「2 内容の取扱い」について、どこの教科書出版者がより配慮された内容になっているか、新しい学習指導要領に沿った取扱いがあるか、などが論点になりました。開隆堂につきましては、特に「2 内容の取扱い」において、材料用具の扱い方や表現方法の解説にページを多くとり、ウェブページでも動画で扱い方や表現方法を調べられるようになっていて、自ら学ぶ工夫がされている点が挙げられました。「4 構成・配列」について、題材の内容を視覚的に捉えられるように、説明的な文章表記を極力抑え、活動例や作品例の写真のスペースを広く取り、児童の「やってみたい。」という意欲を喚起する紙面になっているという報告がありました。特に工夫、配慮を要する点において、「2 内容の取扱い」において題材例がやや少なく、「造形遊び」「絵や立体、工作に表す」「鑑賞」の内容でみたとき、それぞれの題材例の提示にやや偏りがあるとの意見がありました。

日本文教出版につきましては、「1 大阪市教育振興基本計画等との関連」に関連した内容が多く、例えばプログラミング的思考を働かせる題材例が示されているといった記載がされていることも報告にありました。調査の観点「2 内容の取扱い」について、「造形遊び」「絵や立体、工作に表す」「鑑賞」の内容がまんべんなく学習できるよう、それぞれの題材例の数がバランスよく収められていること、また、各題材を学習するとき、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力（人間性等）」の観点からどのような力を発揮すればよいかが明確に示され、児童が学びやすく感じる構成になっていることが報告にありました。

最後に第4地区では、調査の観点「1 大阪市教育振興基本計画等との関連」や、「2 内容の取扱い」について、どこの教科書出版者がより配慮された内容になっているか、新しい学習指導要領に沿った取扱いがあるか、などが論点になりました。開隆堂につきましては、「1 大阪市教育振興基本計画

等との関連」において、児童が主体的に学習できるよう、各学年の発達段階に応じたテーマが設けられており、系統立てて対話的な学びが確立していくような課題設定がなされているという報告がありました。また、「5 資料・その他」において、QRコードを記載し、材料・用具の適切な扱い方を動画で見られるので効果的にICTを活用できるような工夫がみられることが挙げられていました。一方、「2 内容の取扱い」において「造形遊び」の題材が、活動後に再び使うことが難しいような材料が複数取り上げられており、環境教育の観点からも、現場の実態に合わない部分があるという意見がありました。

日本文教出版につきましては、「1 大阪市教育振興基本計画等との関連」において、児童が主体的に取り組める題材や各学年の発達段階に応じた題材に設けられており、「2 内容の取扱い」において、各題材について資質・能力の三つの柱に基づいて、めあてが示され、学習する内容が理解しやすく構成されており、充実した内容になっていることが挙げられていました。また、児童が発想や構想を広げ創造活動のきっかけになるような題材について、活動や作品の多くの写真で示されていること、学校現場で実践しやすいような身近な題材が多く取り上げられていることも報告としてありました。以上で図画工作の報告を終わらせていただきます。

(委員長)

ありがとうございました。なにかご質問ございませんでしょうか。

(委員)

事例を見つけられなかったという単純な質問ですが、1点は、開隆堂には、道徳的な異文化に対する配慮が足りなく、日文には外国人がでてきていいのだというのがあったが、日文のどこのページがああ外国人がでてくるのか教えていただきたい。同じく、プログラミング言語、教育との関連があったというのもそれも何年生のどこのページのどれかというのを教えていただきたい。

(事務局)

すみません。今、ページ数が確認できておりませんので、次回報告させていただきます。

(委員)

データがないので何とも言えませんが、一般論でいうと、すごくいい視点だと思います。図画工作の教科書であっても、外国人がそれとなくちゃんと載っているのはいいのですが、もし、それがひと単元の1ページだけ書いてある。それでは不公平かなと思います。こっちの教科書になくて、こちらの教科書にはあったと書く場合には、例えば、すべての学年に必ず外国人が載っていると、それくらいでないと対比はフェアではないかな。一般論ですが、実物見てないのでわかりませんが懸念されたので、質問させてもらいました。

(委員長)

その点についても次回お示しいただいたらと思います。つづいて家庭科についてお願いいたします。

(事務局)

各地区の専門調査会の調査概要について報告します。第1地区では、特に主体的・対話的な学びを実践し、課題解決につなげる指導を行うにはどちらの出版社がより配慮された内容になっているか、「3 外的要素」の視点から使いやすさはどうかなどが議論の争点になりました。東京書籍については、「1 大阪市教育振興基本計画等との関連」③の観点に関して、巻頭で児童が問題解決をしながら主体的・対話的に学べるように2年間の学習の流れを示している。また「4 構成・配列」の観点から「成長の記録」を記入して学習内容を振り返る構成になっているところが優れています。「3 外的要素」①②の観点に関して、判型が大きく特に実習時には取り扱いにくい、「1 大阪市教育振興基本計画」④の観点に関して、児童自らが論理的に思考・判断していくのはいいねすぎるなど、工夫・配慮を要するところが多くみられました。

開隆堂は、「2 内容の取扱い」①③の観点において、新学習指導要領の目標に沿うように、日常生活の中から問題を見出し、課題解決をして実践につなげていけるような単元構成になっています。「考えよう」「話し合おう」「まとめよう」といった、主体的・対話的な学びを深める工夫が数多くされ、発展的な学習につなげるプロセスの繰り返しで学習が進められています。「4 構成・配列」①の観点において、英語での表記等、教科等横断的な内容を含めて多くの情報を親しみやすい表記で掲載されています。

第2地区では、特に「3 外的要素」③④の視点からユニバーサルデザインへの配慮はどうか、「4 構成・配列」の分かりやすさなどが議論の争点になりました。東京書籍については、「5 資料・その他」の観点からに関して、写真が大きく、作業工程の手元が見やすくなっています。例えば、134 ページ、135 ページがそうです。「3 外的要素」の観点に関して、色づかいが豊富で児童の興味関心を引くものとなっており、UDフォントが非常に見やすく、読み間違えしにくくなっています。「4 構成・配列」の観点において、これまでの他教科での学習を例にあげ、教科等横断的な視点から2年間の学習を見通すことがもくじで編集されています。

開隆堂は、「4 構成・配列」の観点において、5年生ではスモールステップで学習を行い、培った知識を用いて6年生での学習を進めるよう工夫してある点が優れています。また、「2 内容の取扱い」③⑤の観点において、現場で働く人の体験談を載せるなど、子どもたちが興味をもって主体的に取り組めるように工夫されています。「3 外的要素」③④について、イラストでの説明が多く、実際の写真は少ない点に関して、工夫・配慮を要するところが多くみられました。

第3地区では特に主体的・対話的で深い学びを指導に身に付けさせるために、どちらの出版社がより配慮された内容になっているか、「3 外的要素」④ユニバーサルデザインへの配慮はどうか、「4 構成・配列」の分かりやすさなどが議論の争点になりました。東京書籍については、「4 構成・配列」②の観点において、小单元ごとに「めあて」と「ふり返ろう」があり、主体的・対話的で深い学びにつながる工夫が優れています。「3 外的要素」の観点に関して、題材のネーミングやイラストなどが児童の目線に合っていて、実物大の写真がわかりやすくなっています。「3 外的要素」②④について、判型が大きくて作業時に扱いにくい、情報量が多いという点で工夫・配慮を要するところがみられました。

開隆堂は、「1 大阪市教育振興基本計画等との関連」③の観点において題材を通して見通しをもち、生活の中から課題をみつけられるような記述や課題が配慮されています。QR コードで動画が閲覧でき

るなど、ICT機器を活用して主体的・対話的で深い学びができるように工夫されています。「3 外的要素」④の観点について、領域を5つに色分けして学習のつながりを分かりやすくする工夫があります。また、実習・製作の手順を横流れに統一して明確にし、紙面構成や配置が工夫されています。

第4地区では、特に「2 内容の取扱い」の観点について、どちらの出版社がより配慮された内容になっているか、「3 外的要素」④ユニバーサルデザインへの配慮はどうか、「4 構成・配列」②の配慮がなされているかが議論の争点になりました。東京書籍については、「4 構成・配列」の観点において、各単元の学習とこれまでの学習とどうつながり発展していくか理解しやすく、中学校との学びのつながりが意識できるよう工夫されています。「2 内容の取扱い」②の観点については、日常生活に必要な基礎的な理解を図り、技能を身に付けられるようまとめてあります。「3 外的要素」②④について、実習時に扱いにくい大きさと情報量が多いという点で工夫・配慮を要するところがみられました。「2 内容の取扱い」の観点からも、情報量が多すぎて教える教師側の力量が問われ、児童自らが問題意識をもって考える学習をするには配慮を要します。

開隆堂は、「2 内容の取扱い」の観点において「調べよう」「話し合おう」「やってみよう」が設けられ、「ふり返ろう」「生活に生かそう」で実生活に生かす工夫がされている点が優れています。また、日常生活の中から課題を見出し解決する力を養うために役立つ内容が取り上げられており、「参考」のコーナーは様々な生活スタイルや方法に対応できるように工夫されています。「3 外的要素」②④の観点について、文字が大きく、強調すべき部分はわかりやすく太字で表しており、行間もユニバーサルデザインの視点から見ても児童の実態に沿ったものになっている点が優れています。以上で、家庭の報告を終わらせていただきます。

(委員長)

ありがとうございました。家庭についてご意見はございますでしょうか。

(委員)

第4地区の東京書籍のところで情報量が多いため、情報量が多いというのはさっきの話にもありましたが、具体的にどういうところか教えてほしい。

(事務局)

東京書籍の方が、判型が大きくなっておりまして、大きいがゆえに中に入っている文字数が多いと、そこから非常にいろんなことが網羅しすぎてあって、児童がなぜって思うよりも、情報を全部視覚的によみとってしまう懸念があるという報告がありました。

(委員)

それが、いいのかわるいのかという実は判断の分かれめになるのではないかな。総括的な意見の場合で言わせていただこう思っておりますけれども、書き方によって両方にとれるわけですから。わかりました。

(事務局)

はい。

(委員)

家庭科ですね、ひとつは、東京書籍のところに一家だんらんについてかなり詳しく、あのお父さんとお母さんがそろっていて、だんらんにつくのが標準的な日本人のくらし、そうかもしれませんが、悲しい思いをすることも特に大阪は、他の地域に比べて多いんじゃないかと思う。開隆堂の方は、ずっと流しているところがありまして、そういう観点で、特に大阪の子どもたちに家庭科の教科書を見せるときにどうしたらよいかと議論があったのかどうかということ。あるいは、開隆堂の場合は、それとなく男の子が裁縫の作品を見せて笑っている。左手用のはさみとか、左手用の縫い方とか書いてある。多様性に対して配慮している教科書ですね。こちら側は、そうではない。家庭はこうあるべきだという観点で書いてある。そのあたりのところ特に大阪を意識して議論されたのかどうかということを教えていただければと思います。

(事務局)

特に大阪を意識してということは論点にはあがらなかったですが、なぜかと申しますと、家庭科という教科で、家庭のことを扱うという前提がありますので、現場の先生方は日ごろから児童に配慮した授業をされている。そういうことで、取えて論点にはあがらなかったという状況があります。また、右利き、左利きは両教科書の巻末に掲載されている。これは今までの教科書にはなかったのですので、きちんとされているという点で評価されておりました。

(委員長)

他にございませんでしょうか。では、続きまして保健です。お願いします。

(事務局)

保健に関しましては、3年から学習がスタートされます。3年生では、健康な生活、4年…体の発達、5年…心の発達、けがの予防、6年…病気の予防という学習内容になっております。では、各地区の専門調査会の調査概要について報告します。いずれの地区も「1 大阪市教育振興基本計画等との関連」の観点や、「2 内容の取扱い」の観点を中心に、各地区が5者の中から学習活動により配慮された内容になっているか、新しい学習指導要領に沿った取扱いがになっているか、などが議論の論点になりました。資料の11ページをご覧ください。第1地区では、東京書籍については、学習の進め方が明確であり、児童が思考、ここの「しこう」なんです、漢字間違いがありまして、「試す」「行く」になっていますが、「思う」「考える」の思考です。訂正をお願いします。児童が思考していく流れが分かりやすく、主体的に学べる工夫がされていました。イラストや写真が多く、発達段階に適した内容で構成されていました。ただ、文章量が多く、文字がやや小さい。また、写真の色使いで工夫を要する箇所がありました。

学研教育みらいについては、「つかむ、考える、調べる、まとめる、ふかめる」という学習展開がパターン化されており、児童が主体的に学ぶことができます。ユニバーサルデザインフォントを採用して

おり、ユニバーサルデザインフォントというのは、見やすい、遠くでも見えるというフォントですけれども、そういったフォントを採用して文字の大きさや行間、ページの構成、配置などが見やすく、ページ設定や豊富な資料から、自ら学べる内容となっていました。

第2地区では、東京書籍については、「気づく・見つける」「調べる・解決する」「深める・伝える」「まとめる・生かす」「資料」という展開で構成されており、気づきを大切に、見通しをもたせて学習に取り組ませることができそうですが、その一方で情報量が多すぎて、本当に重要な内容を焦点化することに課題があります。また、体の成長を表す男子の写真に配慮がみられないことがありました。

学研教育みらいについては、一時間ごとの学習で「つかむ」「考える・調べる」「まとめる・深める」の学習の流れが確立しており、その中でも「考え・調べる」の場面が多く設定されていました。また、様々なスポーツについての紹介もあり、「豊かなスポーツライフを実現」に向かううえでの工夫もありました。写真や挿絵が適切で、本文の文字は読みやすい大きさになっていました。

第3地区では、東京書籍について、学習の進め方が明確に表示されており、子どもにとって思考し判断しやすい教材となっています。現代的課題を取り上げており、他教科とのつながりが明記されています。資料が多い分、他者に比べるとページ数が多く、平均的に32ページのところが47ページで、子どもにとっては、教科書が重く感じるのではないかと思います。

光文書院については、具体的な内容を取り上げており、自らの課題解決について考え判断しやすいように工夫されています。例えば、3・4年より、スマートフォンやタブレットなどの電子メディアの使い方と生活の乱れを関連付けているのが良かったです。学習の進め方の説明があり、見通しを持って学習をすすめることができ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善できるように配慮されていました。

第4地区では、東京書籍については、主体的・対話的で深い学びとなるように、「ステップ1」から「ステップ4」の学習活動を設定して構成されています。自分の考えを書き込めるスペースが十分に確保されており、考えを深めたり広げたりするのに大変便利です。写真やイラストが鮮明であり、文字の大きさやフォント、行間なども適切で読みやすくなっていました。

光文書院については、各スポーツで活躍しているスポーツ選手のインタビューが巻頭にあり、健康であることの大切さが伝わるように工夫されています。ページのデザインがどの学習項目においても同じであるため、学習の流れがわかりやすく、見通しをもって課題解決に向かっていくことができるようになっていきます。現代社会における健康・安全に関する課題を積極的に取り上げているため、児童の実態や学校の実態に適しています。ただ、児童が自分の考えを記入する欄について、単元によって記入量のバランスに少し課題があります。また、二次性徴において黒い服の写真を使用しているせいか、体つきが分かりにくい状態になっていました。以上で 保健 の報告を終わらせていただきます。

(委員長)

ありがとうございました。何か、ご質問ご意見ありますでしょうか。よろしいでしょうか。では、保健のほうは以上でございます。続きまして英語のほうにまいります。

(事務局)

各地区の専門調査会の調査結果について報告します。第1地区では、身近な内容についてのやり取り

に重きを置かれ、光村図書、東京書籍と啓林館で大きく悩まれていました。また、小学校での英語教育において、やはり言語として英語を教えるだけでなく、言語が持つ文化的背景をきちんと教える必要があり、小学校段階においては極めて重要だという議論になっていました。東京書籍につきましては、教科書からたくさんの発見をして英語の見方・考え方を働かせる作りになっています。コミュニケーションカードやアルバムシートなどを用いて対話の場面を設け、ペアワークやグループワークなどの主体的に学ぶ活動がしやすいように工夫されている部分が評価されていました。また世界の文化について触れられている写真やイラストが多く、教科書が薄いこともあり、視覚的情報が見開きに多く集約されるために、少し見づらいとの意見もありました。

光村図書につきましては、世界の子どもたちに関する音声などの資料や、聞き方・話し方のポイントなどが多く盛り込まれていることに、評価が集まっておりました。写真を含めた世界の文化を紹介する場面が多く設定されておりまして、互いの文化を知り興味を持つ、そしてもっと知りたいと思うことで英語を学ぶという意識づけがされていました。また児童が興味を持ちながら自然に英語を使うことができるように工夫されており、実生活の場面で活用したくなる表現が設定されていることが大きく評価されていました。

啓林館につきましては、「すっぱい」「にがい」「かわいい」「かっこいい」などの子どもたちがやり取りの中で言いたくなる形容詞などがイラストなどからわかりやすく説明されています。使い易いとの意見が多くありました。明確に目的が示されており、見通しが立ちやすいとの意見が多くありました。また、世界の文化についての部分があまり触れられていなかったのが残念であったとの声もでておりました。

第2地区では、内容の部分では現在 WE CAN で示されている方向性に近いものを選びたいということが議論のポイントとなりました。これまで小学校での英語教育は日本語を極力使わずに、英語で教えてきたため、日本語が児童の学習に干渉するのではないかと危惧する意見が多くありました。また、記載されている QR コードの扱いについても、議論が重ねられていました。東京書籍についてですが、教科書が薄い分、見開き 1 ページに盛り込まれる情報量が多くなる傾向はあるものの、日本語・英語ともに、必要最小限に抑えられており、視覚的に圧迫感を与えない工夫がされていたとの高評価を得ていました。また、教科書の作りもスモールステップを意識して作られており、QR コードについては、ページごとに載せられており、必要に応じて利用できることが、学習者にとって使い易いとの意見が多く出されていました。さらに、教科書のサイズも A4 版と大きいうえ、ページ数も少なく軽い作りになっている点が評価されていました。巻末のワードカード等はミシン目が入っており、全体的に見やすく使い易い印象を持つとの意見が多かったです。

教育出版については、現在使用している We can! に最も近い作りとなっており、見開き 1 ページの中の情報量が、最も少なく作られています。特に日本語での指示などは極力控えられており、とても指導し易い作りになっていると評価が高かったです。また、イラストなどを使いながら視覚支援を十分に意識したもので、全ての人がイラストを見ながらこれから行うアクティビティーを想像できる作りになっており、児童が見通しを持ちながら授業を受けられることに評価が集まりました。一方で、QR コードは単元の終わりに一括して記載されており、情報量も多くなっているため、使い勝手が悪いとの指摘がありました。

光村図書については、単元ごとに学ぶことが明確に書かれており、この授業で何ができるようになる

のかを、児童及び指導者が意識しながら学習できる点、振り返りが多い点などが評価されました。文字や色調に統一感があり、ユニバーサルデザインを意識した作りになっています。その一方で、日本語による指示が他の見本本と比べても多く、日本語で理解をしようとしてしまう傾向が高いとの意見が出ました。また、情報量も他の見本本と比べて多く、児童が圧迫感を感じてしまう可能性があるとの指摘がありました。

第3地区では、使い易さについて議論されました。また、文字を書き込む作業をポイントとして見た場合、そして視覚情報についての議論がされました。開隆堂は、写真やイラストが豊富であり、それらを使いながら世界の文化に触れている部分に対しては、高い評価を得ていました。主体的・対話的で深い学びを目指した作りになっており、そのためにスモールステップが少ない作りになっているとの意見がある反面、自分たちで探求する仕掛けには評価が集まっておりました。また、書くことに十分なスペースを確保していることについても高い評価を得たものの、わかったこと、学んだことを文字ではなく、絵で描く必要性があるのかとの意見もありました。

教育出版については、スモールステップからの構成が、英語の苦手な児童にとっても取り組み易い配慮がされており、全ての児童にとって学びやすい教科書になっていると好評でした。他の見本本と比べても圧倒的に日本語が少なく、シンプルで使い易いとの意見が出ていました。見開き1ページの情報量も少なく、児童に対する圧迫感がとても少ない作りになっており、そのうえ、視覚支援を使いながら授業に集中しやすいとの意見が多く出ました。また、いらぬ情報を最低限にしているため、音声などに集中しやすいとの意見もありました。

光村図書に関しては、大文字から小文字に移行する時など、いろいろと学習者の立場に立って作られている部分が高く評価されていました。また、イラストや写真を使い世界の文化について触れている部分が多く、児童の興味を引く作りになっている部分についても高い評価を得ていた一方で、日本語での情報量が多く、英語よりも大きく書かれている点や、視覚情報の多い点で、マイナスの意見も多数出されておりました。

第4地区では英語を学ぶ中で、どのように主体的に取り組むことができるのかが、議論のポイントとなりました。光村図書については、見通しを持って授業に取り組めるかというポイントで、ゴール設定が分かりやすく明記されており、教師・児童が目標を明確に意識しながら授業に取り組めるという理由で高く評価されました。また、コミュニケーションに力を注いだ作りになっており、会話をするときの方法等についても数多く触れられており、英語とは別に相手を思いやるということにも積極的に取り組むことで、英語を使いながら人間力を高められるような作りになっており、他教科や世界とのつながりを意識した部分で高評価につながっていたようです。

教育出版は、写真などに実際の人物を使うなど、ペアーワークやグループワークを通して児童が意欲的に取り組める配慮がされている部分で評価されていました。また、ペアーワーク・グループワークの数も多く、いろいろな活動が盛り込まれている点も評価されていました。一方で、アルファベットの文字の大きさがやや小さいとの指摘がありました。

啓林館につきましては、単元の構成が明確で、振り返りを記入できるようになっています。chantの部分でストレスをかける部分が赤色で印がつけてあるなど、児童自らが意識できる作りになっていること、教科書に書き写す作業を行う際に、見本を見ながらかける工夫がされている点などが評価されていました。一方で他教科との関わりがあまり見られず、総合的に学ぶ点においてどうなのかとの意見が

ありました。また、世界の文化について触れている部分においても、学年で偏りが生じており、もう少しバランスよく配置して欲しかったとの意見が多くありました。以上で、英語科の報告を終わらせていただきます。

(委員長)

ありがとうございました。何か、ご質問ご意見ありますでしょうか。

(委員)

教えていただきたいのですが、意見ではないですが、たぶん第3地区ですがスモールステップが少ないと表現が入っていたと思いますが、それは、スモールステップへの配慮が少ないということでしょうか。それともう一点は、これも教えていただきたいのですが、光村は相手のことを慮るようなコミュニケーションにつながるところがあって、確かに相手のことを聞く、尋ねようとするところが結構たくさんある、それを指していらっしゃるのか、あるいは、それ以外のよい点があるのかを教えていただきたいのですが。

(事務局)

まず、一点目のスモールステップが少ないということですが、まず段階を追って子どもたちが英語を学ぶようにしているしかけがありますが、探求するということをどちらかというとメインにしていますので、まずは、調べていろいろと仲間と協力しながら、わからないこと、難しいことをやっていこうという、山の登り方に対してアクセスの仕方に少しちがいはあるのかなと思っております。二点目の光村に関しましては、聞き方やこう言った場合相手がどう思う、たぶん国語でもそうなんですが、ソーシャルスキルトレーニングの要素が光村には入っているようで、専門のほうでは、その聞き方で相手の気持ちを思うという部分が高く評価されていました。よろしいでしょうか。

(委員)

どのページでしょうか。思うということを踏み込んでいるのは。

(事務局)

5年生の92ページ、93ページの相手の気持ちを考えること、また断り方や、6年生の10ページ聞き方や91ページのジェスチャー等、いろんな視点から盛り込まれている。

(委員)

表現としてスモールステップに配慮した動きが少ないということでしょうか。

(事務局)

そうですね。

(委員長)

他にございませんか。

(委員)

いずれかの地区の時に「WE CAN」と連動して、同じように使えるのが望ましいとおっしゃっていたのですが、それは何でしょうか。紹介してください。

(事務局)

今、現在、「WE CAN」を使っております、文科省から出ております全小学校で使っております。小学校の先生は、「WE CAN」が一番慣れているので、選ばれるとき、今慣れた教科書から基準に考えられている部分が多いかなと思います。

(委員)

今日は、そのサンプルはないのですね。

(事務局)

「WE CAN」は、今もってきておりません。あと、「WE CAN」は教科書ではなく、移行措置期間のテキストとなっています。

(委員長)

他にございませんか。ないようでしたら、最後道德おねがいします。

(事務局)

私の方からは、「特に優れている点」として多くの学校が挙げている観点が多かった教科書について各地区の専門調査会の調査概要について報告します。第1地区では、主に、学校図書と日本文教出版、光文書院が他の5者と比べて優れた点が多いということでした。学校図書については、様々な活動を通して、自ら考え、対話を通して考えを深めることができるよう工夫されているという意見が多く聞かれました。また、学校図書は、各学年2冊に分冊されており、1冊が『学び』、もう一冊が『きづき』となっています。また一方で、「特に工夫・配慮を要する点」として、「5 構成・配列に関する観点」や「6 資料その他」に関する観点の中で、『読みもの』の冊子とは別に『活動』の冊子があり、内容項目の全体の効果的な指導が行えるよう、年間にわたり適切に構成・配列されているが、6年間を見通しての構成・配列については、もう少し工夫が必要だという意見がありました。

次に、日本文教出版についてですが、「特に優れている点」として道徳的価値に関するすべての内容項目を扱い、重点とすべき内容項目については複数の教材を取りあげている。道徳教育における現代的な課題を重視している。多面的・多角的に考えられる発問が教材に応じて置かれているという意見がありました。「2 内容の取扱い」の⑤では各教材の最後に自己を振り返る発問「考えてみよう」が設けられ、多面的・多角的に考えられる発問が教材に応じて配置されているという意見もありました。日文は、「本冊」の他に「道徳ノート」の2分冊で構成されています。このことについては、道徳ノートがあったほうが今までの経過から授業も評価もしやすいという点と教科書と道徳ノートが一冊にまとま

っているものが使いやすいという点があがっていました。特に日本文教出版の道徳ノートは発問が1つで自由記述ができるので学期を通して分かったことなど児童の気づきを確認しやすいという意見が上がっていました。

光文書院については、児童にとって身近に感じられる話題になっており、問題意識を持ち、主体的に考えられるように工夫されている。道徳の授業の見通しがイメージしやすい構成になっているという意見がありました。特に日本や世界の偉人やオリンピック・パラリンピックに触れる教材が多く、自らの考え方や生き方を振り返り目標を見つけることができるという意見があがっていました。「特に工夫・配慮を要する点」として、「3 外的要素に関する観点」の②について、「少し大きく、分厚いので、子どもたちにとっては扱いにくい。」や「高学年にとっては挿絵が多すぎて、児童の発達段階に合っていない。」という意見がありました。

第2地区では、主に、東京書籍と光文書院、日本文教出版が他の5者と比べて優れた点が多いということでした。まず、東京書籍については、体験的な学習を取り入れた「出会う ふれ合う」が設けられ、各学年で多様な学習が展開できるよう工夫されており、児童が親しみやすいイラストやデザインで興味をもって取り組めるという評価が見られました。一方で特に工夫・配慮を要する点は、発問例がいきなり内容項目を問うものが多くて、押さえておくべき大切なポイントの取扱いが少ないという意見がありました。

次に、光村図書については、話合いの仕方や考え方の手引きが豊富に書かれており、主体的に深く学べる工夫があり、各学年の学期ごとに学ばせたい重点がはっきり分かれており、発達段階に合わせて無理なく学習ができるという意見がありました。一方で、「特に工夫・配慮を要する点」として、「外的要素に関する観点」の②について、暗いイメージの挿絵や表情がわかりづらい挿絵があって判型が小さい分、「文字が小さい」といった意見がありました。

日本文教出版については、『道徳ノート』は、多面的・多角的な意見をしっかりと記録できるように工夫されている」、「学年の発達段階に合わせて適切に構成・配列されている」、「ノートが別冊になっているので、指導者が評価しやすい」という意見が多かったです。「3 外的要素に関する観点」の④では「ユニバーサルデザインの専門家の校閲を受けているため、色覚的に見やすい」「挿絵の大きさもよく考える手助けになるものが多い」という点がありました。

第3地区では、主に、東京書籍と光文書院、日本文教出版が他の5者と比べて優れた点が多いということでした。まず、東京書籍については、「いじめのない世界へ」が設けられ、児童が安心して成長できる安全な社会の実現に向け、発達段階に応じて考えられるよう工夫されている。タイトルとともに、分かりやすく表現された学習テーマが明示されています。左ページから始まる教材があるため配慮を要する部分があります。また、「1 大阪府教育振興基本計画との関連」①②③「いじめのない世界へ」では、読み物教材が各学年2点、コラムと一緒に取り上げられ、継続的に考えられるよう工夫されています。また、⑤我が国の郷土や伝統、世界のあいさつや文化など、日本と国際社会への興味をもてるよう工夫されています。

次に、光村図書については、特に優れている点として、いじめ問題は全学年で複数取り扱い、異なる学習内容が取り扱われています。「いじめを許さない心として、善悪の判断や相互理解・寛容等が系統的に配置されている。」「併せて学年の発達段階に応じたコラムが配置されている。」が挙げられていました。一方で、「特に工夫・配慮を要する点」として、「外的要素に関する観点」の②について、右ペー

ジと左ページ始まりが混在し、少しわかりづらいという意見がありました。

日本文教出版については、「児童の発達の段階や特性等を踏まえつつ、論理的思考力・判断力・豊かな表現力等を育成するよう配慮されている」という点において、最も優れていると評価しており、学校現場の実態に合っているという意見が多くありました。「特に優れている点」として「2 内容の取扱い」②では葛藤、心の揺れを扱った教材を配置することにより、自分と重ねながら深く考えられるよう工夫されている。また、⑦では内容項目「命の尊さ」について、全学年にわたって、教材が複数配置され指導時期も考慮され、よりよい生き方について考えが深まるよう配慮されている。④では情報モラルに関する内容が含まれており、具体的な事例を挙げながら、自分の生活を振り返ることができるようになっている。また、他の内容項目とも関連付けて考えられるよう配慮されているという意見がありました。

最後に、第4地区では、主に、東京書籍と光村図書、日本文教出版が他の5者と比べて優れた点が多いということでした。東京書籍については、実生活に即した教材が多く配置され、児童が主体的に考え、学ぶことができるように工夫されている。「いじめ防止」にかかわっては、特に高学年で複数の時間を設け、いじめをしない、許さない心を育むことができます。「特に優れている点」として「1 大阪市教育振興基本計画等の関連」③では自由と責任において、例を挙げ、児童にわかりやすく解説した後、問題場面を通して、話し合い活動を行わせ、その重要性を重んじる態度を育成できるよう工夫されているという意見がありました。一方で工夫・配慮を要する点は、「4 構成配列」②では内容項目別の分類がないので少し使いにくい。考える観点は示されているが、問題解決的な学習や自ら問題意識をもって多面的・多角的な学習を展開するには工夫を要するという意見があがっていました。

次に、光村図書については、導入、教材、手引きの流れで、一時間の授業展開を見ることができる。「つなげよう」では、他の教科や日々の生活へと広がるよう工夫されています。「特に優れている点」として、「1 大阪市教育振興基本計画との関連」の④です。「いじめ問題」に結びつく教材を多く取り上げ、コラムとユニットを組み、互いを認め合う心やいじめを許さない心が育成されるよう工夫されているという意見がありました。また、「4 構成・配列」②ではいじめ防止や情報モラルなど現代の様々な課題に対し、コラムと資料をひとまとまりにしてユニットを組んで学習できるようになっているという意見がありました。「特に工夫・配慮を要する点」として、「3 外的要素に関する観点」の①について、教科書も他者に比べると少し小さいため、文字が小さくなり書き込みスペースもせまくなります。また、長文が多く、1時間の授業で指導することは難しい教材があるという意見もありました。

最後に日本文教出版については、多様な教材が選ばれ、児童が読み取りやすいよう配慮されています。「気づく」「考える」「見つめる」の指導過程が、発問例としてあげられ、児童が主体的に学習できるよう工夫されています。特に優れている点として「1 大阪市教育振興基本計画との関連」の④で「いじめ防止について、さまざまな場面で多角的、多角的に考えられる内容になっている」といった所見も多く見られ、⑤では国際社会で生き抜く力を育むことができるように、教材を配慮し、世界的視野をもつことができるよう工夫されているという意見がありました。また、「2 内容の取扱い」⑤についてはユニットには「心のベンチ」と組み合わせたものがあり、関連した内容や活動が示されていて、より深い学びができるよう工夫されている。また、別冊の道徳ノートを活用することで、自分の考えを基に話し合ったり、書いたりするなどの言語活動の充実ができるよう工夫されているという意見がありました。また、「3 外的要素」の③ではカラーユニバーサルデザインを意識して、色調や色の組み

合わせのバランスがよく、読み取りやすさに配慮しているという意見も多くありました。以上で「特別の教科 道徳」の報告を終わらせていただきます。

(委員長)

ありがとうございました。道徳について何か、ご質問、ご意見ございますでしょうか。

(委員)

2点お伺いします。道徳の教科書にある定量的な調査資料の、いじめのところの見てみると、例えば東京書籍が7つで、1番多い学図が36、各学年で、例えば学図が6テーマ扱って、東京書籍が2テーマ、学研が0となっていますがこれはまちがいないでしょうか。例えば、学図でいじめのテーマを道徳35時間の間6時間扱っているとすると、ほかのテーマが本来ここに重点をおくと少なくなってしまうことが起こりうるので、そうするとあまりにも数の開きが大きいので、本当は確かめようと思ったのですが、時間がないので。もう1点は、取り扱う人物のところで、何か大阪にゆかりの人物とか、そういったところは検討されなかったのか、どうか教えていただければと思います。

(事務局)

まず、いじめのところでは調べたところでは、そういう数になっておりますけれども、もう一度、次の調査のほうで再確認をさせていただきたいと思います。

次に、大阪についてなんですけれども、日本文教出版では適塾の緒方洪庵があげられていました。教育出版では、東大阪市のラグビーの話がでていたのかなと思いました。大阪市教育行政基本条例の前文で、大阪の教育に携わるすべてのものに対して、大阪を愛し、大阪にふさわしい新たな文化の創造をめざすことが基本としなければならないという風には、考えておりますが、今回、調査の観点には少しだけ反映されていますが、教科書の良し悪しについては決定するものではないので、総合的に見てバランスの良い教科書を選定させていただきまして、実際授業の場面で資料集などの補助教材を活用しながら、郷土大阪について基本条例で示されるような素養を育むことが必要であると考えております。

(委員長)

ありがとうございました。よろしいでしょうか。他にございませんか。

(委員)

手元に資料がないですけれども、小学校の道徳の採択は、一昨年に行われましたよね。選定にあたる人が違うから、評価が違うことはいいとは思いますが、ただ、資料を並べたときに、あまりにも違っていたら、「なぜ違うんですか。」という風な質問がくる可能性があると思うので、もし、違うのだったら違う理由をすばっと答えられるようにしていただきたいと思います。一緒にしなさいということでは全然ありません。むしろ違うほうがいいのだと思いますけれど、並べたときに目立ってしまうことがあるので、おそらく質問があると思いますのでお願いしますということで。

(委員長)

他にございませんでしょうか。特にないようでしたら、道徳についても終わらせていただきたいと思います。ここまで、皆様、進行のご協力いただきましてありがとうございました。みなさんのご協力もあり、少し時間もございますので、全体を通しての協議・検討ということで、今日、ここで先ほどの中で言い忘れたことや、全体を通してこの場でご意見、質問したいことがあればよろしくお願いいたします。

(委員)

直近で行われたようなことで、内容が同じなのに、経年的に違う言い方をしていないかということや資料の整合性については、注意深くやらないといけないと思います。また、選ぶ教科書については、一か所でも「不適正」のような表現があると選ぶのが難しいと思うところです。(どの教科書も)検定を通っているわけですから、教科書会社から説明責任を問われると思いますので、表現については気を使う必要があると思います。今回は4地区ということで、私ども区担当教育次長もそれぞれの地区の代表者としてとりまとめの責任を持つという役付になってございますので、タイトな日程の中で作られているのは十分わかっておりますが、文言の誤りがあるようでは、資料としては残念ですし、私どもの責任を果たすという点でも心残りでもありますので、次回に向けまして、もう一度見直していただけたらとお願いをしておきたいと思います。よろしくお願いします。

(委員)

大変お忙しい中で各学校から資料を集約されるということで、大変な作業であったなと思いながら、一生懸命目を通していただきました。2点申し上げます。1点目は、定量的な調査資料とか地区の調査会でまとめたものとか、特に定量的な調査資料に紐づくようなかたちで答申を作っていたけると、教育委員さんが根拠をもって判断を下しやすいのではないのかと思います。それから、先生方も十分分かりだと思いますが、わたしも各区長さんのお話を聞きながら大阪の子どもたちを考えたときに、多様性があり、大阪の先生方の若年化に対する指導力の向上という課題を持ち、その中でさらに学力向上を図っていかなければならないという、いろいろな教育現場の課題があります。なおかつ新学習指導要領実施になりますから、端的に言いますと主体的・対話的で深い学び、アクティブラーニングということを含めて取り組んでいかなければなりません。いろんな課題がある中で、これから教育委員さんがご判断いただく教科書というのはあらゆる意味で標準だと思います。その標準をどのように判断していただくかの検討の資料を作成していくというのは非常に重要なのだなと思います。しかも大阪市ですから、300万人近い人口ですから、大変なんだと思いますし、そのうえで、先ほどから申し上げているところなんですけれども、情報量が多いとか、発展的な内容であるとか、このことについて発展的内容は若い先生が教えるのが大変であると解釈をするのか、そうでないのか、事実としては、情報量が多いという事実はあるんですけども、そのことに対してどのように解釈をして答申を作るのか、現場の先生の声がそうなのかもしれないけれども、そこは、あえて頑張ってくださいというエールを送って教科書選択をするのかどうなのか、各指導主事の先生方が、どのような答申資料を作っていたいて、教育委員会の会議にどのようにご説明いただくのかがポイントになるかと思いますので、その解釈の理解というか、ぶれないようなかたちで、方向性を確認して作成していただければいいかと思います。

(委員長)

他にございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

そうしましたら、本日は一時からここまで審議してまいりました。区担当教育次長の皆様のそれぞれの地区の子どもの実態に踏まえて、調査の概要について説明していただきました。そのうち、各担当の指導主事の方から議論の観点を示していただきまして、ご説明していただきました。その中で委員の方々から質問・意見があったかと思えます。この場でお答えしていただいたこともあるんですけども、次回改めて説明することにつきましてはよろしくお願ひしたいと思えます。では、今、ご指摘にありましたようにミスがありましたし、文言の修正もあるかと思えますので、そのあたりよろしくお願ひいたします。

次回、いろいろ答申資料の内容を確定していくという作業に入っていきます。担当の皆さん、大変タイトなスケジュールの中で、準備も大変だと思いますけれども、次回、スムーズに進行できますように準備の方よろしくお願ひしたいと思えます。

それでは、本日は本当にお疲れ様でございました。これで第2回選定委員会を終わりたいと思えます。長時間のご審議ありがとうございました。